

名古屋市立大学大学院薬学研究科及び名古屋工業大学大学院工学研究科の
共同大学院設置について

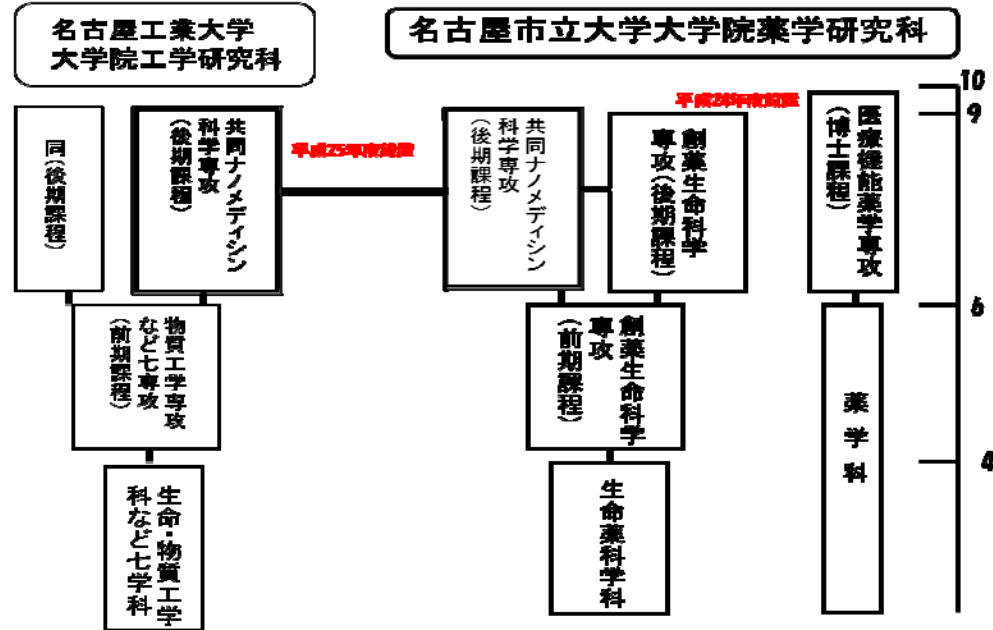
1 内 容

平成 25 年 4 月 1 日から、名古屋市立大学大学院薬学研究科及び名古屋工業大学大学院工学研究科は、薬工融合型としては全国初となる、共同大学院として「共同ナノメディシン科学専攻（博士後期）」をそれぞれ設置するとともに、同専攻博士前期課程の設置を検討する。

これに伴い、名古屋市立大学大学院博士後期課程の学生定員を 4 名増加させるとともに、専任教員の再配置と増員（1 名）を行う。

本専攻の設置は、両研究科が共同して実施してきた「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成プログラム」（平成 20～22 年度文部科学省大学院教育改革支援プログラム選定）の成果を発展させるものである。

2 組織図



共同大学院の設置に伴う博士後期課程・博士課程学生定員および専任教員数の変化

	学生定員		専任教員数		学生定員		専任教員数
	学年定員	収容定員			学年定員	収容定員	
医療機能薬学専攻(4年制)	6	24	31	➡	6	24	28
創薬生命科学専攻(3年制)	8	24	29		8	24	24
共同ナノメディシン科学専攻(3年制)	4	12	9		4	12	9
合計	14	48	60		18	60	61

(平成 24 年度)

(平成 25 年度以降)

3 目的と効果

- (1) 創薬科学・生命科学分野に多くのリソースを持つ薬学研究科と、ナノマテリアル科学・ナノテクノロジー分野に多くのリソースを持つ名古屋工業大学工学研究科の教員が共同して教育課程を開設し、研究指導を行なうことにより、新しい創薬マテリアルや薬物送達手法の開発にあたる研究者・技術者を養成し、わが国の創薬産業を新しい視点からになることの出来る人材を育成する。
- (2) 両研究科の密接な共同体制のもとで、「ものづくり名古屋」の伝統にふさわしい研究成果を発信する。

平成24年度 大学院生に対する国際学会発表支援事業の概要

1 趣 旨

本学大学院生の学術研究活動の国際化を推進するため、大学院生が海外で開催される各種学会に参加し当該学会において発表を行う場合、その渡航費用（旅費）について助成する。

2 対象者

海外で開催される学会に参加し、当該学会において発表を行う本学大学院生

3 助成内容

一人あたり150千円を限度に、旅行所要額について助成する。（年1回限り）

※ ただし、渡航先が国家公務員等の旅費支給規程第17条第4号に定める地域（^{*}アジア地域）のうち次の国又は地域である場合は、100千円を限度に旅行所要額

※ 韓国、中国（香港を含む。）、台湾、フィリピン、ベトナム、カンボジア、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア

- ◆ 助成対象となった学会参加後、精算書（様式3）および発表要旨、発表風景写真などを付した報告書（様式4）を提出させ、支援額を決定する。
- ◆ 当該国際学会への参加にあたり、外部団体等による助成・補助などを受ける場合、又は学術奨励寄付金などの外部資金および科学研究費補助金などにより所要額の一部を負担する場合にあっては、旅行所要額から当該助成、補助額または外部資金および科学研究費補助金による負担額を減額した額を支援額とする。
- ◆ 「旅行所要額」は、運賃（目的地に至る最短経路による往復の旅行に必要とする経費）および滞在費（目的地における当該学会の参加に必要な最短滞在日数にかかる宿泊料）の合計額とする。
- ◆ 「旅行所要額」の算定にあたっては、公立大学法人名古屋市立大学旅費に関する規程（平成18年4月1日公立大学法人名古屋市立大学達第19号）を準用する。

4 平成24年度予算額

6,500千円

5 支援対象者の決定

指導教員の推薦を受けた申請者からの申請に基づき、研究科長から学長に内申し学長が候補者を決定する。（所管：事務局学術課）

- 申請者（学生） [※] 申請書に必要書類を添え、指導教員の推薦をうける。
- 指導教員 申請内容について審査し、所定欄に推薦理由を記入する。
- 研究科長 申請内容及び推薦理由について確認し、学長に内申
- 学長 内容について審査し、予算の範囲内で対象者および支援額を決定

※ 申請時必要書類：参加する学会開催通知、プログラムなど申請者の参加が確認できるもの、発表要旨などの写し、航空賃見積書または請求書、学生証の写しなど

国際学会発表支援実績(平成21年度-平成24年度)

年度	研究科	人数	主な参加学会(国名)
平成21年度	医学研究科	12	39th Annual ESDR Meeting 2009(ハンガリー) Vaccine Third Global Congress 2009(シンガポール) 11th International Congress of Inborn Errors of Metabolism(アメリカ)
	薬学研究科	12	12th Congress of the European Society for Sexual Medicine(フランス) The 5th Joint Meeting of The Societies for Free Radical Research Australasia and Japan(オーストラリア) Keystone symposia(タンザニア)
	人間文化研究科	1	IASA 2009 World Congress(中国)
	システム自然科学研究科	1	European Association of Nuclear Medicine(スペイン)
	合計:	26	
平成22年度	医学研究科	18	OzBio2010(オーストラリア) 23rd Scientific Meeting of the International Society of Hypertension(カナダ) The 35th ESMO Congress(イタリア)
	薬学研究科	16	International Chemical Congress of Pacific Basin Societies(アメリカ) The 14th World Meeting of the International Society for Sexual Medicine(韓国) The 6th Congress of Asia Pacific Society on Thrombosis and Haemostasis(インドネシア)
	人間文化研究科	1	International MultiConference of Engineers and Computer Scientists 2011(香港)
	芸術工学研究科	2	SPIE Medical Imaging 2011(アメリカ)
	システム自然科学研究科	1	European Association of Nuclear Medicine(オーストリア)
	合計:	38	
平成23年度	医学研究科	9	27th Annual European Association of Urology (EAU) Congress(フランス) United States & Canadian Academy of Pathology 101st Annual Meeting(カナダ) ORS 2012 Annual Meeting(アメリカ)
	薬学研究科	11	0th International Conference on Materials Chemistry MC10 2011(イギリス) 14th Congress of the European Society for Sexual Medicine(イタリア) Experimental Biology 2011(アメリカ)
	芸術工学研究科	1	IEEE EMBS 2011(アメリカ)
	システム自然科学研究科	1	EMBO Conference: Chromatin and Epigenetics(ドイツ)
	合計:	22	
平成24年度	医学研究科	13	European Association for Behavioural and Cognitive Therapies(スイス) 20th United European Gastroenterology Week(オランダ) 24th Meeting of the International Society of Hypertension (オーストラリア)
	薬学研究科	11	The Complex Life of mRNA(ドイツ) 57th DAE-Solid State Physics Symposium(インド) 2012 International Ion Channel Conference(韓国)
	人間文化研究科	1	CAJLE2012 Annual Conference Bridging between Theory and Practice(カナダ)
	芸術工学研究科	4	The 1st Asia conference of international Building Performance Simulation Association(中国) 10th International Conference of Asia Digital Art and Design Association(台湾)
	システム自然科学研究科	1	2012 International Workshop on Smart Info-Media System in Asia(タイ)
	合計:	30	

【年度計画 31】

名古屋市立大学ティーチャング・アシスタント制度実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、名古屋市立大学ティーチャング・アシスタント制度の実施について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 ティーチャング・アシスタント制度は、大学院博士前期課程（医学研究科大学院修士課程を含む。以下同じ。）大学院博士後期課程及び大学院博士課程の優秀な学生を教育的配慮のもとに教員の補助者として従事させることによって、大学教育の充実を図るとともに、当該学生に対して指導者としてのトレーニングの機会を提供することを目的とする。

(任務)

第3条 ティーチャング・アシスタント（以下「T・A」という。）の任務は、次の各号に定めるところによる。

(1) 大学院博士前期課程の学生 学部学生に対する講義、演習、実験及び実習（以下「授業」という。）に関する教育補助業務

(2) 大学院博士後期課程及び大学院博士課程の学生 学部学生及び大学院博士前期課程学生に対する授業に関する教育補助業務

2 前項の規定に関わらず、別に定める場合においては、大学院博士前期課程の学生に、T・Aとして、同課程の学生に対する授業に関する教育補助業務を行わせることができる。

(身分)

第4条 T・Aは、本学の教職員の身分を有しない。

(任用)

第5条 T・Aの任用は、1年以内とし、週10時間、年間30週を限度とする。

2 T・Aには、事前に一定期間、授業担当教員の指導を受けさせるものとする。

(授業の管理責任及び安全対策)

第6条 T・Aを任用して行う授業の担当教員は、当該T・Aによる教育補助業務を管理し、当該授業の安全に十分配慮しなければならない。

(授業計画書の提出)

第7条 T・Aの任用を希望する授業担当教員は、授業計画書（様式1）を作成し、任用しようとする学生の指導教員の推薦を受けたうえ、研究科長又は学部長（以下「研究科長等」という。）に提出しなければならない。

(選考)

第8条 研究科長等は、前条の授業計画書が提出されたときは当該教授会の議を経て理事長に提出するものとし、理事長は、これを適当と認めたときはT・Aの任用を決定するものとする。

(終了報告書の提出)

第9条 授業担当教員は、授業終了後すみやかに授業終了報告書（様式2）を作成し、研究科長等を経て理事長に報告しなければならない。

(謝金)

第10条 T・Aには、予算の範囲内において謝金を支給する。

2 前項の謝金は、授業終了報告書1件ごとに事後一括して支払うものとする。

(特別研究員の除外)

第11条 日本学術振興会特別研究員である学生は、原則としてT・Aとなることができない。
(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、ティーチャング・アシスタント制度の実施について必要な事項は、各研究科において定めるものとする。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年11月30日から施行する。

附 則

この要綱は、発布の日から施行する。ただし、この要綱による改正後の名古屋市立大学ティーチャング・制度実施要綱第3条第1項の規定は、平成24年4月1日から適用する。

(様式 1) ティーチャング・アシスタント授業計画書

平成 年 月 日

理 事 長 様

所 属 _____
講 座 等 _____
担当教員 _____

次の授業計画により、ティーチャング・アシスタント(以下「T・A」という。)の任用を希望します。

1 授業計画の内容

授 業	名 称				
	概 要				
	総時間数				
	担当教員が担当する時間数		T・Aが従事する時間数		
任用しようとする T・A	氏 名		生年月日	年	月 日
	所属等		研究科 課程 年	学籍番号	

2 T・Aの指導教員の推薦調書

指導教員氏名		所 属		研究科
推薦理由				

3 研究科長確認 氏名 _____ 印 _____

4 教授会承認の年月日 _____ 年 月 日

(様式 2) ティーチャング・アシスタント授業終了報告書

平成 年 月 日

理 事 長 様

所 属 _____
講 座 等 _____
担当教員 _____

次のとおり、ティーチャング・アシスタント(以下「T・A」という。)による授業を終了しましたので、報告します。

1 授業内容の報告

授 業	名 称				
	内 容	(T・A が担当した時間数 時間)			
	授業担当教員の講評等				
	担当した T・A の感想等				
担当した T・A	氏 名		生年月日	年	月 日
	所属等		研究科 課程 年	学籍番号	

2 T・Aによる授業実績報告

実施年月日		実 施 内 容	時間数	担当教員 確認印
・ ・				
・ ・				
・ ・				
・ ・				
・ ・				
・ ・				
・ ・				
・ ・				

H24_TA実績

	実施人数 (延人数)	実施人数 (実人数)
医学研究科	11	11
薬学研究科	19	19
経済学研究科	23	15
人間文化研究科	13	12
芸術工学研究科	38	22
看護学研究科	7	5
システム自然科学研究科	16	16
合計	127	100

【年度計画47】

授業評価アンケート問5(総合評価)が3未満の科目数の推移 (H21年前期からH24年前期)

2012/9/28

数値は科目数

	H21年前期	H21年後期	H22年前期	H22年後期	H23年前期	H23年後期	H24年前期
総科目数	431	437	430	445	444	476	438* (454)
教養教育	6	7	11	5	10	5	12
医学部		2		2		2	(1)**
薬学部	3	3	5	1	1	3	0
経済学部	3	3	5	4	2	0	2
人文社会学部	4	3	2	4	3	0	1
芸術工学部	2	5	0	3	0	1	0
看護学部	1	2	0	2	2	1	0
全学合計***	19	25	23	21	18	12	15 (16)

* 医学部前期集計科目を除外した講義数。(454)は医学部前期集計科目を含めた講義数

** 後期で集計するため、参考の数値

*** 教養教育を含めた合計。(16)は医学部を含めた数

大学満足度調査結果全体に対するコメント

- (1) 4 ヶ年の経年変化を見たとき、若干の上下はあるものの、学部毎に値が安定的に推移しています。調査対象の学生が入れ替わっても調査結果の変化が少ないことは、学部毎の体質ないし体制の変化が少なく、学生による評価が固定していることを意味し、その調査結果は信用に足るものであると考えられます。
- (2) 調査結果に対する対応
- ・評価点が+1.2 を超える（極めて満足度の高い）項目については、現時点では特に問題はないことになりませんが、今後高い評価を受け続けるようにすべきと思われます。（S）
 - ・評価点が+0.6 を超える（かなり満足度の高い）項目については、緊急度は低いものの、さらに満足度を高めるべく努めるべきであると考えられます。（A）
 - ・評価点が 0～0.6 である（不満足というほどではないが満足度が低い）項目については、満足度を高める努力が必要です。（B）
 - ・評価点がマイナスである項目は、早急な対策が必要と考えられます。（C）
 - ・評価点が-0.6 以下である項目は、特に緊急に対応すべきであると考えられます。（D）

(3) 項目別学部別評価結果

	医学部	薬学部	経済学部	人文社会学部	芸術工学部	看護学部
Q 6 現在の自分について						
①名古屋市立大学に入ってよかった (H21-23 は大学に入ってよかった)	AS S	AS S	AS S	S	S	S
②大学生活は自分にあっている	AS	A	A	S	AS SA	AS S
③大学は自分の期待どおりであった	BA	BC	B	B	B	B
Q 7 大学での目標について						
①自分の進みたい職業分野がある	S	S	A	B	AS S	S
②大学にきた理由を答えられる	S	A	B	AB	AS	S
③大学は自分の将来のためになると思う	S	S	A	S	S	S
④大学で学んだことで将来を決めたい	S	S	B	☆BC CB	A	S

大学満足度調査結果について

教育支援センター長

大学満足度調査は、平成 19 年度以降全学生を対象に毎年実施しています。その結果は、教育改革やカリキュラム改革等に有効に利用されてきました。

しかし、調査結果の分析及び対策は学部毎に任ざれており、大学全体としての分析や評価が行われてきませんでした。この問題を解決するために、平成 23 年 4 月に発足した教育支援センターが中心となって全学的視点に立った分析や評価を行い、学部に対して報告や提言を行うことになりました。

従前、大学満足度調査結果は、調査年毎、学部毎、学年毎、設問項目毎に回答を集計し、相対度数による横棒グラフで表示してきました。

この方法では、経年変化や学部間の差等が明確でなく、全学的視点に立った分析や評価に適していないことから、各回答をポイントに換算し平均点をとる方法、すなわち、大学満足度調査版 GPA で表示することにしました。

各設問に対して用意されている回答は、「強くそう思う」、「そう思う」、「それほど思わない」、「まったく思わない」の 4 段階であり、調査開始当初にあった中間的な評価は廃止され、肯定的か否定的かに明確に分けるようになっています。この趣旨を活かして

強くそう思う = +3
そう思う = +1
それほど思わない = -1
まったく思わない = -3

とポイントをつけることとしました。したがって、評価点は -3～+3 の間の点数となり、次のような意味を持つこととなります。

+3	全学生が完全肯定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。
+1.2	+3 が 20%、+1 が 70%、-1 が 10%、-3 が 0% の場合が相当し、極めて肯定的意見が多いことを意味する。
+0.6	+3 が 20%、+1 が 50%、-1 が 20%、-3 が 10% の場合が相当し、かなり肯定的意見が多いことを意味する。
0	肯定的意見と否定的意見が拮抗することを意味する。
-0.6	+0.6 の逆であり、かなり否定的意見が多いことを意味する。
-1.2	+1.2 の逆であり、極めて否定的意見が多いことを意味する。
-3	全学生が完全否定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。

Q 8 授業への自分の取り組みについて									
①授業に集中できている	BA AB	B	☆BC CB	B C	BA AB	B	BA AB	B	
②勉強する意欲がわく	AB	B	B	C	B	A	B		
③勉強のことでよく先生に相談する	D	D	D	D	D	DC	D		
④いい成績をとりたいと思う	AB	A	A	A	AB	A	AB BA		
Q 9 これまで受けてきた授業内容（教養教育）について									
①知的刺激を感じる授業に出会った	A	A	A	S	A	B			
②カリキュラム（科目構成・学年配当などは）適切である	C	C	B	A	B	B			
③授業で学んだ外国語は役立つ	C	D	C	C	C	D			
④授業で学んだことは自分のキャリア形成に役立つ	B	B	B	B	B	B			
Q 10 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む。）について									
①知的刺激を感じる授業に出会った	A	A	AB	SA	S	A			
②カリキュラム（科目構成・学年配当などは）適切である	B	B	B	A	B	B			
③やりがいのある授業があつて充実している (H21-23 はやりがいのある授業があつて楽しい)	AB	B	☆BC C	AB C	A BA	AB BA			
④授業で学んだことは自分のキャリア形成に役立つ (H21-23 は授業で学んだことは役に立つ)	AS	A	B	AB	A	S			
Q 11 学習の分量・水準等について									
①勉強する量は適切である	BA AB	B	B	AB B	AB B	AB B	AB B	AB B	
②学習分野の広さは適切な範囲である	AB	B	AB	AB	BA	AB			
③授業のレベルは適切である	A	AB	AB	A	AB	A			
④宿題などを相談する機会が十分設けられている	★CB BC	CD	☆BC C	BC C	BC C	BC C			
Q 12 授業への教師の取り組みについて									
①理解度を確認しながら授業を進める先生が多い	★CB BC	CD	C	☆BC C	BC C	B	★CB B		
②教え方がうまい先生が多い	★CB BC	CD	C	C	C	B	★CB B		
③自分の成長を気にしてくれる先生がいる	C	CD	CD	☆BC C	BC C	BC C	★CB B		
④相談をしやすい先生が多い	★CB BC	CD	CD	☆BC C	BC C	B	★CB B		
⑤授業の内容は全体的によい	BA AB	B	B	AB	AB	A	AB B		

⑥授業に熱意をもった先生が多い	B	BC	BC	AB B	BA A
Q 13 授業の全体的な印象について					
①全体として、授業を楽しむことができた	BA AB	B	A	A	B
②いろいろな授業から知的刺激をうけた	BA A	AB	B	A	A
③全体として、これまでのところ大学での授業の経験には満足している	BA A	BA AB	B	A	A
Q 14 事務室・図書館や課外活動について					
①大学職員の対応は満足できる	C	B	C	A	B
②教室などの学習施設は充実している	C	C	B	B	A
③図書館は充実している	C	B	A	B	A
④食堂・喫茶等の施設は充実している	D	D	D	C	C
⑤課外活動のための施設は充実している	C	D	C	C	B
D、CD、C、CB(網掛け部分)の項目数					
昨年D、CD、C、CB (網掛け) であった項目数	2	6	6	3	2
今年度新たにD、CD、C、CB となった項目数 (★の数)	4				5
昨年D、CD、C、CB (網掛け) であったがB以上となった項目数 (☆の数)			3	4	2
新しい質問 (Q 9、10②、14、計10項目) からの項目数	7	5	4	3	3

*) 下段は昨年度の結果

表中 S,A,B,C,D は、それぞれ4ヶ年ともに評価が1.2以上、0.6~1.2、0~0.6、-0.6~0、-0.6以下であったことを意味し、ABは、直近はAであるが過去にはBであった年もあったことを意味します。

教養教育における研究授業の実施について

■ 本学での実施の目的

大学全体の教育力向上に向けた FD の取組みの一環として、参考となる授業を他の教員に公開し、意見交換をすることで、相互に授業の改善を図ることを目的とする。

- 専門教育及び大学院教育→各学部・研究科で取組みを進める。
- 教養教育→平成25年度からの実施に向けて教育支援センターで取組みを進める。

■ 教養教育における実施要領（案）

1. 研究授業対象科目について

「授業についてのアンケート調査」の前年度の結果をもとに、総合評価が全教養教育科目の平均以上だった科目の中から、前期・後期の各学期で実施する。

本学専任教員が担当する授業科目に限定する。

オムニバス科目、集中講義、早期体験学習、看護基礎、外国人教師による外国語科目、滝子キャンパス以外のキャンパスでの開講科目は除外する。

アンケートの回収枚数が10枚未満の科目は除外する。

(1) 平成25年度前期の実施科目

平成24年度前期のアンケート結果において、総合評価が全教養教育科目の平均である 3.88 以上の授業科目の中から、

文化と人間性の探求、外国語科目の中から1科目

自然と数理の探求、情報科目、生物学、数学・統計学の中から1科目

を、関係する科目部会長に
選定していただき、合計2
科目で実施する。

	科目区分	講義コード	科目名	担当教員	履修者数	問5 総合評価	所属	25年度開講	形式 (オムニバス等)	曜日・時限	特記事項
						平均					
共通科目	一般教養科目	K1404	政治学4	伊藤 恭彦	12	4.75	人社	×		月曜・4限	
		K4203	経営学1	出口 将人	64	4.13	経			木曜・2限	25年度担当教員の変更
		K5305	人間性の探求1	古賀 弘之	129	4.52	人社	○		金曜・3限	
		K4105	文化の理解6	吉田 一彦	24	4.24	人社	○		木曜・1限	
		K4209	自然と数理4	木藤 新一郎	78	3.97	システム	○		木曜・2限	
	外国語科目	K5210	総合英語1	宮田 学	31	4.50	人社			金曜・2限	25年度担当教員の変更
	外国語科目	K1201	ドイツ語A	別所 良美	37	4.27	人社	○		月曜・2限	
	外国語科目	K5308	英語リフレッシュ1	野村 直樹	16	4.25	人社	○		金曜・3限	
	外国語科目	K1206	フランス語A	佐野 直子	42	4.13	人社	○		月曜・2限	
	外国語科目	K5110	総合英語4	中川 敦子	28	3.92	人社	×		金曜・1限	
	情報科目	K1101	情報処理基礎	渡邊 裕司	34	4.14	システム	○		月曜・1限	
	情報科目	K3303	情報・統計処理	宮原 一弘	47	4.00	システム	○		水曜・3限	
	情報科目	K4401	情報処理基礎	渡邊 裕司	36	3.97	システム	○		木曜・4限	
基礎科目	生物学	K1102	基礎生物学	湯川 泰	94	4.56	システム	○		月曜・1限	
	数学・統計学	K3106	微分積分学	田中 豪	49	4.12	システム	○		水曜・1限	
	数学・統計学	K2202	統計学	能登原 盛弘	46	3.96	システム	○		火曜・2限	

(2) 科目担当教員への依頼

教育支援センター長から、改めて (1) で選定された科目の担当教員に書面で依頼する。

2 . 実施日程・方法

担当教員の予定や都合に合わせて、前期は5月～6月頃、後期は10月～11月頃を目途に、研究授業を1回行っていただく。

・具体的な実施日や参観受入可能人数など、教務企画室と担当教員との間で調整を進める。

それまでの授業の経緯や授業の狙いなどについてのシラバス等の情報を、教務企画室を通じて参観希望者に伝達する。

3 . 参観対象者

本学専任教員に限定する。

4 . 周知方法

本学 HP のイントラ (教職員限定情報) サイトのトップページ及び教育支援センターのページに情報を掲載する。

教員のメールボックスへチラシを配布する。(教育支援センター・ニュースレターの活用)

5 . 参観申込の受付

教務企画室で受付期間を設け、メールで受付ける。

・メール記入項目：参観希望科目・所属・氏名など

6 . 研究授業当日の流れ

参観者は、教室の出入口に設置された出欠票に記入後、同様に設置された回収箱に投函する。

授業開始後の途中退出は不可とする。

7 . 研究授業終了後の流れ

参観者は、事前に配布した研究授業についてのアンケート (別紙案参照) を電子ファイルまたは紙面にて、教務企画室へ提出する。

参観者から提出されたアンケートを、教務企画室より授業担当教員へ送付する。

(案)

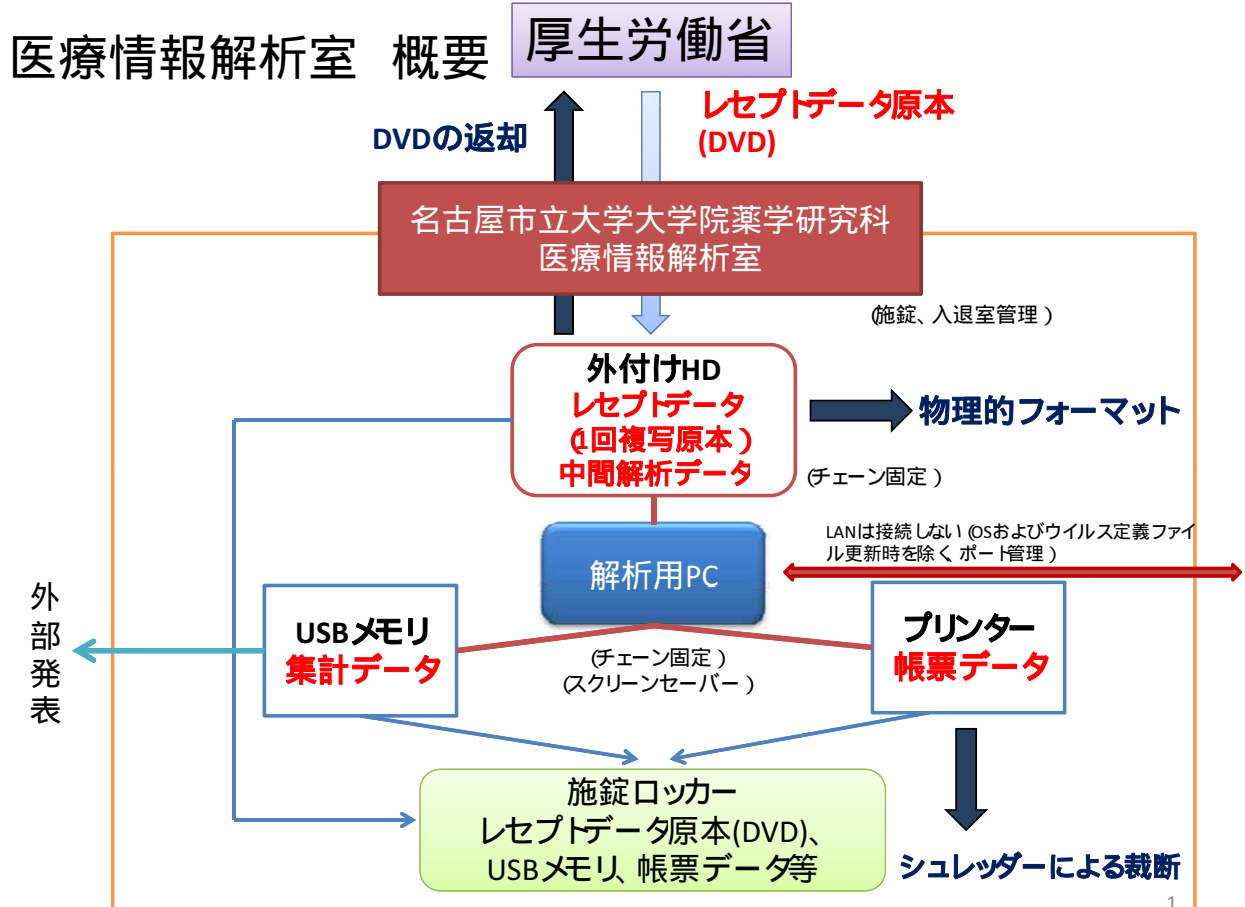
研究授業についてのアンケート

授 業 名		担当教員名	
参 観 日		教 室	
1．本授業で参考になったと思われる点を挙げてください。			
2．本学の研究授業制度に対する意見や感想などを自由に書いてください。			

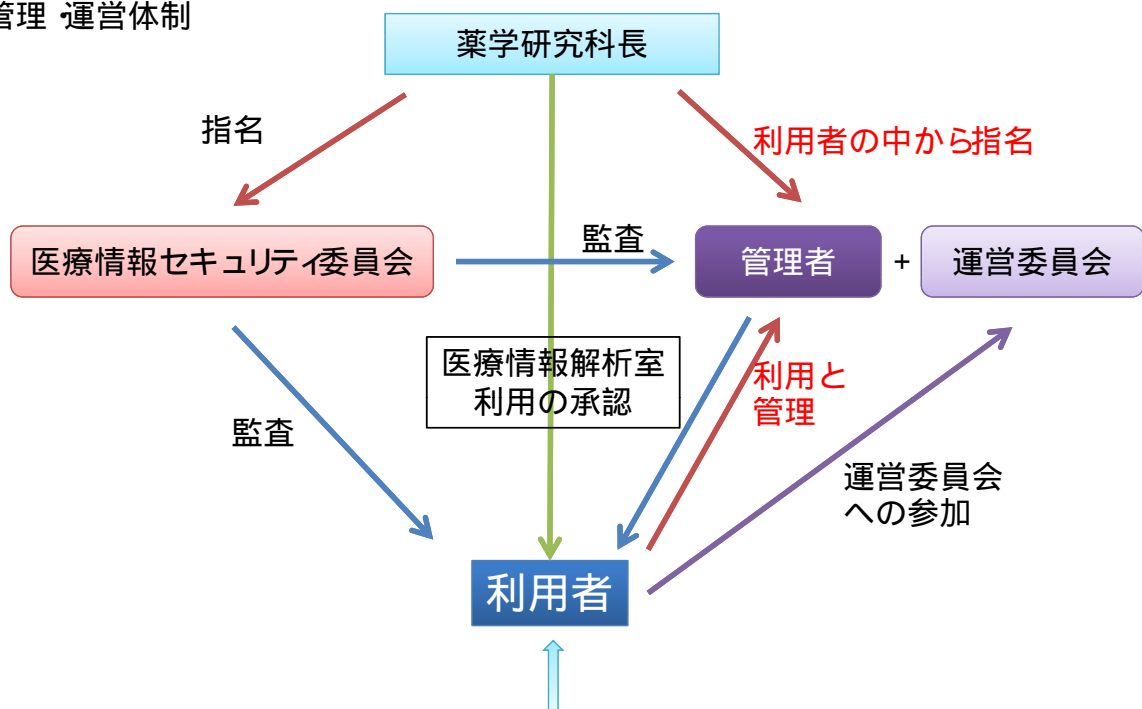
アンケートへのご協力ありがとうございました。記入後は、電子ファイルまたは紙面にて、教務企画室まで提出いただければ幸いです。

所属を○で囲み、お名前をご記入ください。

所 属	医学研究科 薬学研究科 経済学研究科 人間文化研究科 芸術工学研究科 看護学部 システム自然科学研究科
氏 名	



医療情報解析室
管理 運営体制



厚生労働大臣によるレセプトデータ提供の承認
名古屋市立大学倫理審査委員会による研究実施の承認

創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業は、創薬プロセス等に活用可能な技術基盤の整備、積極的な外部開放（共用）等を行うことで、創薬・医療技術シーズ等を着実かつ迅速に医薬品等に結び付ける革新的プロセスを実現することを目的としている。

この事業は、解析拠点、制御拠点、情報拠点の3拠点から構成され、これらが有機的に連携することで、大学発の創薬を実現することを最終的な目標としている。

この中の制御拠点の中に合成領域というものが本年度新たに設けられた。この領域は、合成化学を活用することにより創薬を支援する技術を高度化すること、また、ヒット化合物の構造最適化支援を、各種合成技術により行うことを目的としている。この合成領域の課題募集に薬学研究科の樋口恒彦が課題管理者（代表）として応募申請し、本年度採択され8月より事業を開始している。申請課題名は「C-H 結合活性化を活用する独創的リード化合物高度化」であり、これは、最適化を行う対象化合物の、本来反応性が低く修飾困難な部位を修飾可能にする、難易度が高いが独創的化合物群を創製可能にする高度な技術の開発に関するものである。また、生理活性を高めることが期待されるフッ素官能基導入をリード化合物に効率的に行う最適化の取組も同時に進めることも目的としている。

さらに、上記手法を用いて新規性・ヒット性の高い化合物ライブラリー構築も行っていく。

一方で、当研究グループの有する合成能力を駆使し、リード化合物のそれまでの合成経路を、より効率よく実用性の高い経路で且つ類縁体合成にも適したものに大きく改良することも重点を置いて進展させる。

以上を総合することにより、独創的で且つ効率の高い医薬品候補化合物の創発が期待できると考えている。

以上を、本学薬学研究科の化学系4分野、及び名古屋工業大学の柴田哲男教授で協力し、名古屋市立大学に既に設置された創薬基盤科学研究所と緊密に連携しながら実施し、シーズ育成と共に支援基礎技術確立を達成するために取組を進めている。

1 採 択	平成 24 年度
2 事業期間（予定）	5 年
3 交付金額（24年度）	16,000,000 円（名市大分）
4 推進責任者	薬学研究科 樋口恒彦 教授

名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室

セキュリティ基本方針

平成 23 年 9 月 13 日教授会制定

1. 目的

名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室セキュリティ基本方針は、名古屋市立大学大学院薬学研究科（以下、薬学研究科）における研究対象としての医療情報を取り扱う際の個人情報保護及びセキュリティ対策の基本方針を定めたものである。薬学研究科が研究対象として取り扱う医療情報資産及び解析に用いる情報システムの機密性、完全性及び可用性を維持し、総合的・体系的かつ継続的な情報セキュリティ対策を目的とする。

2. 研究対象としての医療情報を取り扱う情報システムの安全管理に関する方針の構成

研究対象としての医療情報を取り扱う情報システムの安全管理に関する文書は、医療情報についての情報セキュリティ対策及び個人情報保護の方法について、総合的、体系的かつ具体的に取りまとめたものである。「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室セキュリティ基本方針」、「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用に当たっての運用管理規程」及び「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用についての内部監査（自己点検）規程」の 3 つの文書から構成される。

■名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室セキュリティ基本方針

医療情報解析室で受け入れ、保管、データ解析をする医療情報資産に関する情報セキュリティ対策及び個人情報保護の基本的な考え方と方針を規定するものであり、情報セキュリティ対策の頂点に位置するものである。

■名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用に当たっての運用管理規程

セキュリティ基本方針に基づき、情報セキュリティ対策を統一的に講ずるために、教職員及び学生、研究員等が遵守すべき行為及び設備、ネットワーク技術等の基準を規定するものである。

■名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用についての内部監査（自己点検）規程

医療情報等を利用した研究について、運用管理規程に定める運用が適切に実施されているか確認するための方法、確認を行う者を定めるものである。

3. 適用範囲

医療情報セキュリティ基本方針の適用範囲は、以下の各号に示すものとする。

① 適用組織

名古屋市立大学大学院薬学研究科

② 適用情報資産

学術研究のために医療情報解析室で受け入れ、保管、データ解析をする医療情報。厚生労働省より学術研究のために提供されるレポートデータ等も含む。

③ 適用対象者

適用される情報資産に接する適用組織の教職員（非常勤職員及び臨時職員等を含む。以下「職員等」という。）、学生（大学院生、学部生）及び研究員とする。また、機器の保守やデータ解析の委託を受けた業者等にも適用される。

4. 職員及び学生、研究員等の義務

① 厳守義務

適用対象者である職員等及び学生、研究員等は個人情報保護及び情報セキュリティの重要性について共通の認識を持つと共に、医療情報解析室が所掌する医療情報資産を取り扱う際には、研究対象者の個人情報保護するため、個人情報の保護、不正アクセス行為の禁止等に関する法律や著作権法等の情報セキュリティに関連する法令、疫学研究倫理指針等の研究指針、並びに「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室セキュリティ基本方針」及び「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用に当たっての運用管理規程」、「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用についての内部監査（自己点検）規程」を遵守しなければならない。

② 処分等

本基本方針に違反した職員等及び学生、研究員等は、その重大性及び発生した事案の状況等に応じて、医療情報解析室の使用を禁止する等の処分対象となる場合がある。また、委託業者にあつては、本基本方針に違反することによって生じる損害を弁済させる場合がある。

5. 情報セキュリティ管理体制

医療情報解析室の所掌する医療情報資産について、適切に情報セキュリティ対策を推進・管理するための下記のと体制を確立する。

- 医療情報解析室に、薬学研究科長に指名された管理者を置く。管理者は実務についての実施と責任を負う。
- 「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室情報セキュリティ基本方針」「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用に当たっての運用管理規程」「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レポート情報等の利用に

ついでに内部監査（自己点検）規程」の策定・改訂に関する協議及び適切な管理が行われているかを監督するための医療情報セキュリティ委員会を置く。委員長及び委員は薬学研究科長が指名する。

6. 医療情報セキュリティマネジメントシステムの実践

医療情報解析室の所掌する医療情報資産をその内容によって分類し、その重要度に応じた情報セキュリティ対策を講ずるため、情報セキュリティマネジメントシステムを実践する。

7. 医療情報セキュリティ対策に関する規程の公開・非公開

「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室情報セキュリティ基本方針」は公開するが、「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レセプト情報等の利用に当たったでの運用管理規程」、「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レセプト情報等の利用についての内部監査（自己点検）規程」の公開は、犯罪の予防その他の公共の安全及び秩序の維持に支障を及ぼす恐れがあるため、研究科長の許可を得た場合を除いてこれらは公開しない。

8. 医療情報セキュリティ対策実施状況の検証

医療情報セキュリティ基本方針が適切に遵守されていることを確認するために、医療情報セキュリティ委員会が定期的に情報セキュリティ対策の実施状況について検証を行う。

9. 医療情報セキュリティ対策の評価・見直し

医療情報セキュリティ対策の実施状況の検証結果、情報システムの変更、新たな脅威等情報セキュリティを取り巻く情報の変化に対応し、医療情報セキュリティ委員会は「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室セキュリティ基本方針」、「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レセプト情報等の利用に当たったでの運用管理規程」、「名古屋市立大学大学院薬学研究科医療情報解析室レセプト情報等の利用についての内部監査（自己点検）規程」の評価と見直しを適宜行う。

10. 外部からの問い合わせの窓口

医療情報解析室で実施される研究についての一般からの問い合わせ受付窓口は薬学部事務長とする。問い合わせへの対応は、薬学研究科長及び医療情報セキュリティ委員会が行う。

附則

1. この本医療情報セキュリティ基本方針は、平成 23 年 9 月 13 日から施行する。

医薬品等審査迅速化事業費補助金
(革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業)

1 事業の目的

事業実施機関は、レギュラトリーサイエンスの考え方を踏まえて、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）及び国立医薬品食品衛生研究所（NIHS）と連携・人材交流を行い、革新的医薬品・医療機器・再生医療製品の安全性と有効性の評価方法の確立に資する研究を実施し、国が作成する新薬・新医療機器審査・安全対策のガイドラインの世界初または世界同時発信につなげる。本事業により、レギュラトリーサイエンスの推進による医療イノベーションの社会的調和を図るとともに、アカデミア、審査側双方において、革新的技術及びレギュラトリーサイエンスに精通した人材育成及びそのための体制の確立にも資するものである。

2 本学の実施計画

表題 バイオマーカー等を活用した分子標的薬の有効性、安全性の効率的評価方法の確立

概要

ゲノムバイオマーカーを活用した個別化医療技術を用いて、有効性と安全性についての新規評価法を確立し、分子標的薬開発の迅速化へのゲノムバイオマーカーの応用例を示すことを目的とする。併せて、国際共同治験における日本人を対象にした安全性評価を、ゲノムバイオマーカーを用いて効率的に行う評価法の確立を目指す。以上の成果から、分子標的薬の開発研究における有効性と安全性評価のためのゲノムバイオマーカーの利用方法や、安全性に関する民族差の検討にゲノムバイオマーカーを利用する際に考慮すべき事項を明らかにしたガイドライン案を作成することを目指す。

事業期間（予定）

平成24年度～28年度

総括研究代表者

薬学研究科 教授 頭金正博

予算（平成24年度）

51,000千円

以 上

平成 24 年度 経済学研究科プロジェクト研究成果報告書

1	テーマ	名古屋市の都市経営・都市環境の現状と課題
2	担当責任者	井上泰夫 共同研究者 山田雅雄特任教授、吉井信雄特任教授
3	研究内容	平成 24 年度公開シンポジウム「21 世紀の名古屋市を展望する」を研究テーマとして、今年度は、山田が「まちづくり」の観点から名古屋市のこれまでの都市計画を振り返りつつ、今後の課題を研究した。吉井は歴史的観点に立って日本の都市行政の中で名古屋市を位置づけつつ、自治の観点から今後の行政を研究した。最後に、井上は地方行政の全体的な視点に立って論考を準備した。
4	研究経過	山田、吉井の研究は公開シンポジウムにおける個別報告としてそれぞれ公表された。また、そのために報告打ち合わせ会議を数回開催しつつ、相互の意見調整をおこなうことができた。
5	研究成果	山田、吉井の研究成果は、研究所年報『国際経済研究』第 14 号、2013 年 4 月に掲載予定である。また、井上の研究成果は、井上泰夫「21 世紀の地域経済」として公表される予定である。

平成 24 年度 経済学研究科プロジェクト研究成果報告書

1	テーマ	末組織部門の労働条件と働くものの意識
2	担当責任者	松村文人（経済学研究科教授）
3	研究内容	労働組合要因が実際に労働者の労働条件により影響を与えているのかどうかをアンケート調査により検証する。労働組合要因とは、企業内に組合が存在するか否か、雇用者が組合に加入しているか否か、組合率（組合員数／従業員数）の水準はどれくらいか、などを指す。日本では組合要因が必ずしも労働条件により影響を与えない可能性があるという指摘は、松村（2011）「共働き夫婦の生活・仕事時間の構造」（名古屋市立大学経済学会ディスカッションペーパー No.539）でもなされており、この点に関する詳しい説明を行うのが目的である。
4	研究経過	本研究では、労働条件として労働時間を取り上げ、組合要因が、所定内労働時間や所定外労働時間（残業、休日出勤）の長さ、週休制の形態、有給休暇取得率などに与える影響を見る。また、組合加入の意志、組合への信頼度と労働条件との関係も見る。 質問票を作成し、業者に委託して、首都圏在住の 20 代から 50 代までの男女雇員 400 名に対して、2013 年 1 月、インターネットを通じてアンケート調査を実施した。業者よりデータ、単純集計結果を受け取り、クロス集計による分析を行った。
5	研究成果	アンケート回答者の正社員比率が 9 割に達し、サンプリに偏りが出たため、正規・非正規社員の比較は断念した。 組合の有無が労働時間に与える影響については、組合なしで週所定労働時間 40 時間超の比率がやや高いが、組合有無に関わらず大きな差がない。組合なしの方が残業時間が短い傾向がある。組合ありの方が完全週休 2 日制の比率が高い。組合ありの方が有給休暇取得率 100%の比率が高く、全般的に取得率は組合ありの方が高い。 組合率の高さが与える影響については、組合率の高い方が所定時間が長い。残業では組合率の高さによる違いはほとんどない。完全週休 2 日制では、組合率が高い方がやや比率が高い。有給取得率では、組合率が高いと 100%取得の比率は高いが、全般的に取得率は組合率に左右されない傾向がある。 結論的に組合要因が必ずしも労働時間により影響を与えているとはいえないと考えられる。分析は中間段階であり、2013 年 6 月に最終的な成果に仕上げる予定である。

平成 24 年度 経済学研究科プロジェクト研究成果報告書		
1	テーマ	大都市財政と臨時財政対策債
2	担当責任者	森徹（経済学研究科教授、諏訪一夫（経済学研究科特任教授）
3	研究内容	地方交付税の一部振替措置として平成 13 年度以降導入されている臨時財政対策債制度が、大都市自治体の財政運営に与えて来た影響を分析し、当該制度の存続の是非や発行可能額算定方式の評価を行うことを研究の目的とする。 分析の対象としては、主に名古屋市を取り上げ、普通地方交付税の不交付団体・交付団体の境界線上にある大都市財政にわたっての臨時財政対策債の影響を分析する。
4	研究経過	財務省自治財政局への問合せや財務省ホームページ（地方行財政・地方交付税のページ）上での資料収集と、総務省関係者による臨時財政対策債発行可能額の算定方式に関する解説、臨時財政対策債に関する学術論文の精読、さらには、名古屋市財政局資金課でのヒアリングや日本地方財政学会での津 by 交付税関係の研究発表の聴講等により、臨時財政対策債発行が能率算定方式の理解を深め、名古屋市における発行実績の把握に努めて、これらを素材として臨時財政対策債が大都市自治体の財政運営に及ぼす影響を考察した。
5	研究成果	各地方自治体の臨時財政対策債発行可能額が、地方財政計画・地方財政対策を通じてマクロ的に決定される臨時財政対策債発行可能総額を当該自治体の人口規模に応じて按分した額に算定する「人口基礎方式」(平成 21 年度まで採用)の下では、人口規模の大きい大都市自治体では、実質的には財源不足が生じているにも関わらず、地方交付税が受けられない事態が発生する一方、実質的財源不足を上回る臨時財政対策債を発行する「規律に欠ける」財政運営が行われる可能性があることを指摘し、名古屋市はその典型的な自治体であったことを明らかにした。 また、平成 22 年度より導入された「財源不足基礎方式」では、各地方自治体の臨時財政対策債発行可能額は、当該自治体の実質的財源不足額の一定割合として算定されるため、上記のような問題は避けられるが、財政力指数が比較的高い大都市自治体については、実質的財源不足額に対する臨時財政対策債発行可能額の割合が非常に高く設定されるため、臨時財政対策債の発行に伴う公債費が後年度の地方交付税で補填されることは期待し難く、地域住民の将来負担を増大させる可能性が高いことを明らかにした。 こうした分析結果を踏まえて、今後、大都市税制の整備等により臨時財政対策債の圧縮ないしは廃止の方向を探るとともに、大都市自治体においても臨時財政対策債に過度に依存しない効率的な財政運営に心がけるべきであることを主張した。 上記の研究成果については、下記の研究論文として公表した。 諏訪一夫・森徹「臨時財政対策債と大都市自治体の財政運営-名古屋市における発行を事例として-」、『地方財務』700 号、ぎょうせい、2012 年 10 月、47-66 頁

平成 24 年度 経済学研究科プロジェクト研究成果報告書		
1	テーマ	病院および企業の経営改善のための新業績評価指標の開発
2	担当責任者	星野豊太（大学院経済学研究科教授）
3	研究内容	本研究の主な目的は、病院および企業の経営課題を財務的視点から検討し、とくに病院では医療の質とコストとの関係を、企業では事業内容を財務と非財務との両面を把握することで経営改革につながる指標や手法を開発することである。さらに、前者は医療制度の課題の検討を通して、経営改革につながる手法を提案する。後者は、企業の運転資本管理の側面から実証的に研究していき、経営改善につながる新たな評価指標(KPI)を探索していく。
4	研究経過	近年、医薬分業や診療報酬の改訂などの変化により、病院経営を取り巻く医療環境は厳しくなる傾向にある。その結果、病院の医療の質とコストとの関係を新たな指標を導入して測定することは、病院経営を改善する有用な手法となる。他方、企業にとっても、グローバル化がサプライチェーンマネジメントを拡大させており、その結果、事業のリードタイムを短縮する必要性に迫られている。有用な運転資本管理のための評価指標について研究することは、企業の経営改善につながっていく。
5	研究成果	本研究では、高齢化による医療費の増加、医療の質の向上、それに病院など医療機関の経営の効率化、という 3 つの問題についてその論点を整理しながら、検討を加えた。医療経済の問題は、限られた資源をどのように効率的に配分し、誰がどのようにそのためのコストを負担し、そしてできる限り公平に医療サービスを受けられるようにするかが重要であることがわかった。 医療の質と効率というこの 2 つの指標はときにトレード・オフの関係にあり、両者の要因を同時に満足することは非常に難しい。それは、医療機関の経営効率も基本は投入に対する産出で測る点は同様だが、企業のように収益性や効率性だけで評価できないところがある。そこで、医療の質をいかに的確に評価するかが問題となってくる。日本の公立病院は、民間の経営手法を取り入れ思い切ったコスト削減を実行しつつあるのが一つの特徴となっている。したがって、その達成を図るためにバランスト・スコアカード(BSC)を利用して、グループで取り組んでいくことを試論的に展開した。 一方、企業のグローバル化に対応するために事業のリードタイムを短縮して運転資金管理の効率化を図る必要がある。そのための経営改善につながる新たな評価指標(KPI)を探索した。 上記の研究成果については、下記の研究論文として公表した。 ・星野豊太「日本の医療制度の課題と経営改革の方向」『国際地域経済研究』第 14 号、名古屋立大学、2013 年 4 月、1-16 頁 ・星野豊太「IFRS の導入が企業の戦略と業績測定に及ぼす影響-日本の製造業を中心に-」『オイコノミカ』第 49 巻第 2 号、名古屋立大学、2013 年 3 月、5-23 頁 ・星野豊太・足立直樹「グローバル企業の新 K P I としてのキャッシュ・コンバージョン・サイクル-リードタイム短縮による資本効率の改善-」『企業会計』第 64 巻第 2 号、2013 年 2 月、118-127 頁

人文社会学部 ESD プロジェクト研究会

趣旨

平成 25 年度から人文社会学部は ESD を学部の教育・研究の理念として設定し、それに向けてカリキュラムの内容を改変し、また教員間での持続可能な地域社会教育 (ESD) の実践内容を深めまた共有するために「人文社会学部 ESD プロジェクト研究会」を発足する。本プロジェクト研究会は、ESD の充実のために研究会、講演会、シンポジウムを企画・実施し、その成果を公表する準備を行う。

構成

代表：寺田元一教授（人文社会学部の研究推進担当）
中心メンバー：別所良美教授（学部長・研究科長）
藤田英史教授（前学部長・研究科長）
山田明教授（元学部長・研究科長）
吉田一彦教授（元学部長・研究科長、理事補佐）
阪井芳貴教授（人間文化研究所所長）
成久美准教授（教育学）
基礎科目（ESD 科目）担当教員
その他教員

平成 24 年度実績

第 1 回 人文社会学部 ESD 研究会

2012 年 7 月 3 日午後 4 時～6 時 人文社会学部棟 1F 大会議室
本学部の阪井芳貴教授と芸術工学部学部長の鈴木賢一教授の講演と質疑。教員参加者数 30 名強。1 時間半ほどの講演の後、30 分ほどの質疑応答。ESD を理念とする新学部に向けて、ESD に基づく研究教育の今後の展開の第一歩となった。
阪井教授は「名古屋市立大学 ESD 研究会のあしどり」と題して、2007 年 4 月の発足から現在に至るまでの名古屋市立大学 ESD 研究会の歴史を回顧していただいた。
鈴木教授には「ESD と市民参加のまちづくり」と題して、建築家として先生が関わってきた（いる）多くのプロジェクトについて、PPT 資料を使って説明していただいた。

第 2 回 人文社会学部 ESD 研究会

対象： 人文社会学部の教員を中心とする本学教員
実施日時： 11 月 20 日（火）15：00～16：30
実施場所： 1 号館 1 階 103 会議室
講師： 高山 進 教授（三重大学大学院生物資源学研究所）
「ESD を理念にしたシラバス、授業計画作成に向けて」

第 3 回 ESD プロジェクト会議

2012 年 12 月 13 日。人文社会学部応接室
議題

1. 教育から研究へ：ESD を研究へとつなげる
2. 2 月 5 日「ESD と大学」シンポジウムに向けて

第 4 回 ESD プロジェクト会議

2013 年 1 月 24 日 人文社会学部応接室
議題： ESD 基礎科目のシラバス作成に向けて、文言など最終調整

第 5 回 シンポジウム「ESD と大学」

2013 年 2 月 5 日 人文社会学部 201 講義室
詳細は案内チラシを参照

第 6 回 研究推進担当者会議 ブックレット『ESD と大学』編集のために

2013 年 3 月 20 日 人文社会学部応接室
議題：ブックレットの編集準備態勢およびブックレットの構成について

以上

2012年度 名古屋市立大学 人文社会学部 シンポジウム
ESDあいち・なごやパートナーシップ事業

ESDと大学

新たな地域連携型教育の多様な可能性を求めて

名古屋市立大学人文社会学部は、2013年度よりESDを教育研究の柱とする学部生まれ変わります。私たちはESDを「豊かで人間らしい生き方のための持続可能な地域社会と地球社会をつくるための教育」と考えています。そしてこれを機に、今までにも増して、地域・地球社会から問題を汲み取り、学生や地域のみならずと体験・対話・協働しながら進める教育研究を進めていきたいと思います。

さらに2014年秋には、「国連ESDの10年」の最終年合が名古屋・豊中で開催されます。世界的にも現在「持続可能な社会づくりの担い手」を育てる教育が求められ、その成功に向けて私たちの学部も今さらながら、しかし責任ある一歩を市民・県民のみならずと踏み出したいと考えています。

シンポジウムには日本のESDをリードする立教大学ESD研究所所長の阿部治教授、中部ESD拠点の運営委員長である名古屋大学の竹内恒夫教授にもパネリストとして参加いただき、地域連携をさらに広げ深める方向で、大学におけるESDの多様な可能性を、みなさんと探っていきます。

日時: 2013年2月5日(火) 14:00 ~ 17:30
会場: 名古屋市立大学 滝子キャンパス1号館 201教室 (裏面の地図参照)

パネリスト: 阿部 治氏 (立教大学教授 立教大学ESD研究所所長)
竹内 恒夫氏 (名古屋大学環境学研究所教授)
別所 良美氏 (名古屋市立大学人文社会学部教授 学部長)
成 玖美氏 (名古屋市立大学人文社会学部准教授)



阿部 治氏

1955年生まれ。専門は環境教育/ESD。立教大学社会学部教授、立教大学ESD研究所所長。日本環境教育学会会長、持続可能な開発のための教育の10年推進会議代表理事など。



竹内 恒夫氏

1954年生まれ。専門は環境政策/ESD。名古屋大学大学院環境学研究科教授、中部ESD拠点運営委員長、なごや環境大学実行委員など。

主催: 問合せ先: 名古屋市立大学 人文社会学部
〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑 1
TEL・FAX: 052-872-5808 E-Mail: esd@hum.nagoya-u.ac.jp

連携協力: ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会

どなたでも
ご自由に参加ください
入場無料
事前申し込み不要
先着 200名

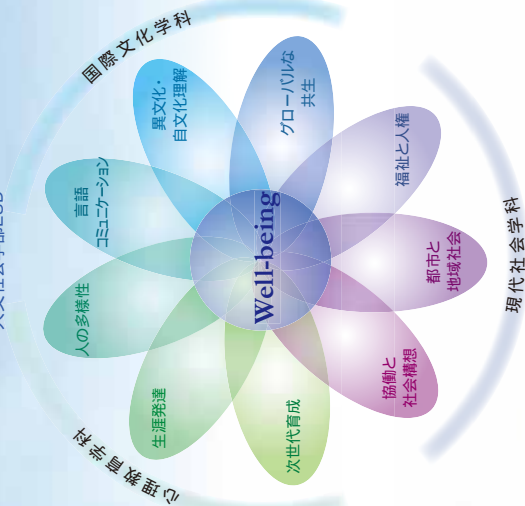


2012年度 名古屋市立大学 人文社会学部 シンポジウム
ESDと大学

新たな地域連携型教育の
多様な可能性を求めて

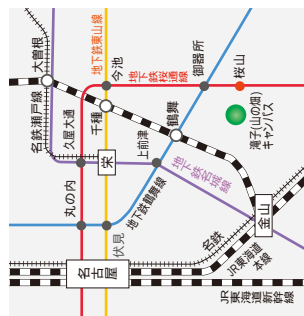
日時: 2013年2月5日(火)
14:00 ~ 17:30

会場: 名古屋市立大学
滝子キャンパス1号館 201教室



会場への行き方

● 名古屋駅から桜山駅までの経路図



● 桜山駅から滝子キャンパスまでの地図

「はくぶつかんなまつり」

2012/8/4-5

於：名古屋市博物館

H24 8/5 読売（朝刊）

博物館 お化けが案内

「今晚来てね～」 名市大の学生企画



お化けにふんした学生の案内で、展示室を見て回る子どもたち（名古屋市博物館で）

名古屋市博物館（瑞穂区）で4日夜、名古屋市立大の学生が企画したイベント「ナイトミュージアム」が行われた。展示室は、あんなに見立てた照明だけを、涼やかな「お化け屋敷」に様変わり。訪れた子どもたちは普段と一味違う博物館に興奮していた。

「きゃあ」「かわいい」。薄暗い2階の常設展示室に子どもたちの声が響いた。土器や刀などの展示品の案内

役を務めるのは、お化けにふんした学生たち。古代の暮らしについてお化けがおしゃべりする「女子会」などの出し物もあり、両親と来た同市瑞穂区、小学1年原田楓太君（6）は「お化けがかわいくて楽しかった。また来たい」と喜んでいった。イベントは、博物館が地元商店街などと共同で開催した夏祭りのメイン企画。2010年からは市立大の学生が企画、運営している。同大は博物館のすぐ近くにあるのに、訪れる学生が少ないため、同館に親しんでもらうきっかけを作ろうと始まった。

人文社会学部学生を中心とする市大生による名古屋市博物館「はくぶつかんなまつり」の「ナイトミュージアム」は夏の恒例行事となり、2012年も8月4日と5日に開かれた。

両日とも、午後7時30分から8時30分の間、2階常設展示室を無料開放、照明をすべて消し、ところどころに灯る行燈風の淡い明かりの中で、普段とは異なる学生たちの企画・運営によっておこなわれた。

今年のテーマは、「サマーおばけーション」。

学生たちが、5月から準備を進めてきた、なかなか面白い企画となった。

また、これも恒例の「ろうそく天の川」も、2012年は市大生のデザインが採用されてた。

社会に貢献しようという経験が成長につながると思う」と、学生の活動に期待していた。イベントは5日も午後7時半から8時半まで開催される。参加無料。

O おもしろい S さくひんを U うみだそう！ ワークショップ

大須観音展開催中

2012年12月1日（土）～2013年1月14日（日）

名古屋市博物館と名古屋市立大学学生・九州国立博物館ボランティア学生部が
共同でワークショップを開催！好きなファースを選んで体験しよう！

日にちと場所

2012年12月24日（月）午前10時～午後3時

1階の展示説明室にて（展示室はコンクリートで上座します）

参加無料。予約もいりません。

プラバンづくり



プラバンで動物の形や
おまじないのタマゴを作ってみよう

和紙の本づくり



和紙の文様や
色紙で本を作ってみよう

メッセージカードづくり



きょうの日に
自分たちの気持ちを伝えよう！

紙しばい上演

昔から伝わる紙の芸術とされる『紙しばい』を元に
紙しばいを上演します。紙に込められた思いをみてね！

上演時間

第一回 午前10時30分から

第二回 午後1時30分から



名古屋市立大学芸術工学部による、**書**の作品が
会場の雰囲気を演出します！



開催場所 **名古屋市博物館**

〒467-0806 瑞穂区瑞穂通1-27-1 地下鉄桜通線「石山」下車 4番出口から徒歩5分

TEL 052-853-2655 / FAX 052-853-3636

www.museum.city.nagoya.jp

お問い合わせ 名古屋市立大学 阪井研究室 TEL052-872-5181

くわしくはウェブへ！ <http://ameblo.jp/meishihakusapo/>（名古屋市博物館サポーターブログ）



古事記題材の 紙芝居を上演

市博物館、大学生が催し

瑞穂区の市博物館で二十四日、名古屋市立大の学生が、この冬休み企画したワークショップが開かれた。若者を博物館と呼び込もうと活動する学生

らの「市博物館サポーターMARO」が、一月十四日まで開催中の特別展「古事記千二百年大須観音展」に合わせて計画した。古事記を題材にした紙芝居を上演したほか、昔の和紙の本を作る体験などもあり、多くの親子連れでにぎわった。

人文社会学部一年の加藤万尋さん(か)は「来るたびにこんな発見がある博物館の楽しさを伝えていきたい」と話していた。

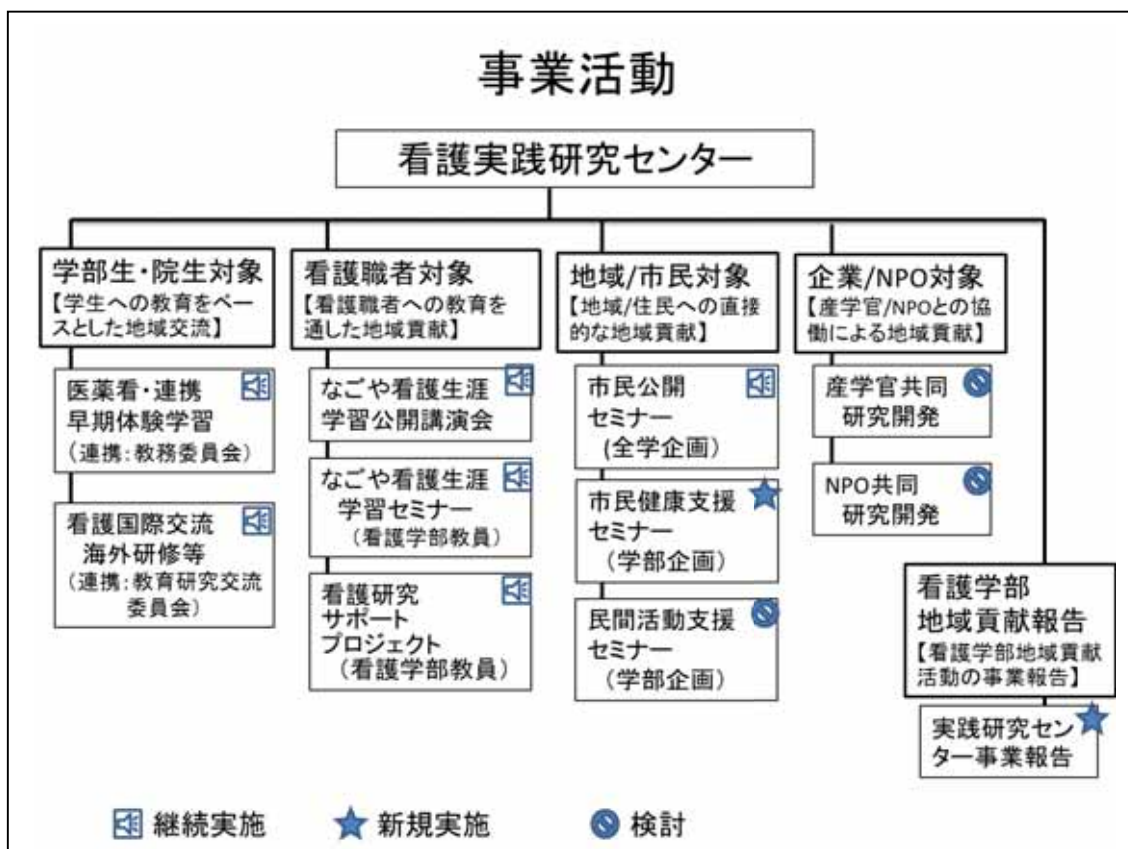
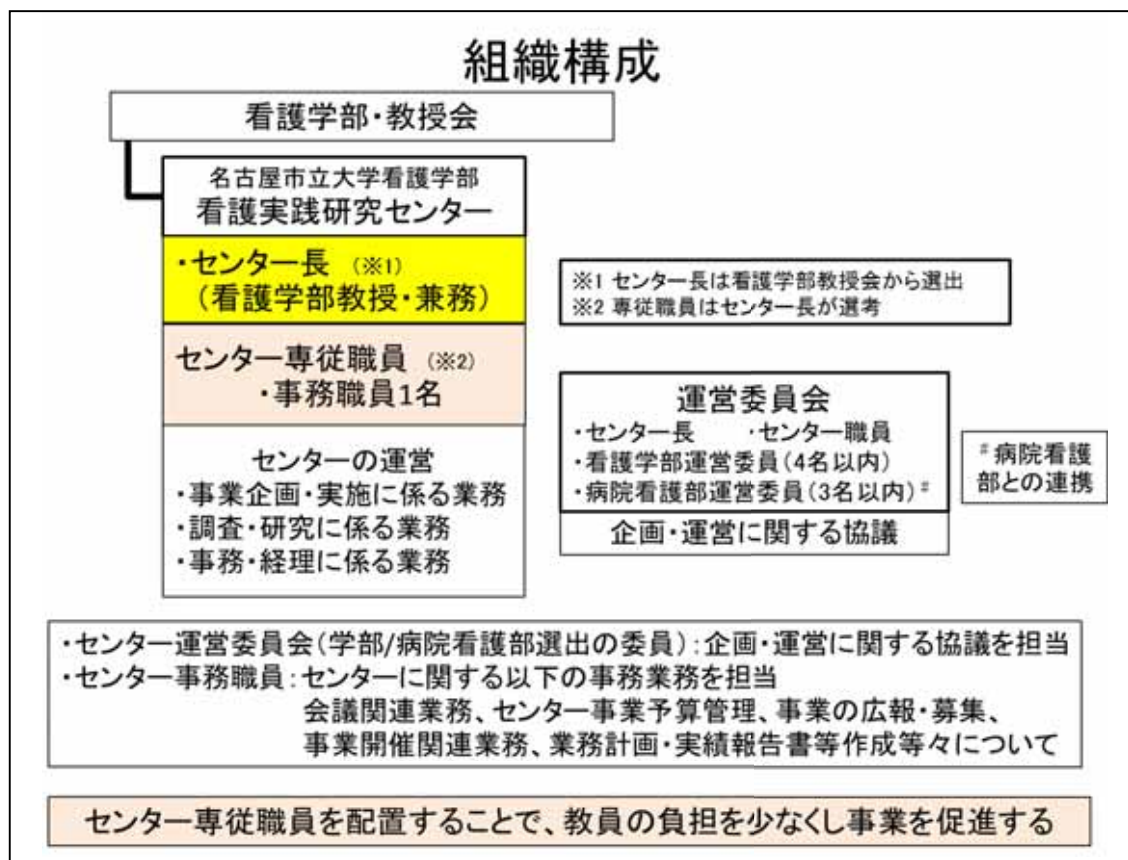


古事記をもとにしたオリジナルの紙芝居を上演する学生ら＝瑞穂区の市博物館で

受託・共同研究実績(平成24年度)

区分	分野・研究担当者	共同研究・委託者	研究題目	履行開始	契約金額
受託研究	教授 溝口正人	安城市	歴史的建造物緊急調査 - 安城市内において、開発により失われていく近代を中心とする歴史的建築物及び構造物について、実績調査を行い、図面化し、文化財を活かしたまちづくりをする上での基礎資料とする。 -	H24.4.13	735,000
受託研究	教授 溝口正人	美濃加茂市	旧伊深村役場(美濃加茂市)実測等調査研究	H24.6.8	200,000
受託研究	教授 溝口正人	大垣市	赤坂清水家住宅建造物調査及び基本設計	H24.6.18	500,000
受託研究	教授 溝口正人	大垣市	赤坂まちづくり調査	H25.2.27	500,000
受託研究	教授 溝口正人	名古屋市住宅都市局	有松地区における町並み保存対策調査(建物調査)	H24.7.20	2,394,000
受託研究	准教授 原田昌幸	トーソー株式会社	自動制御ブラインド	H24.6.1	1,500,000
受託研究	教授 青木孝義	(独)国立文化財機構	ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業にかかる解析モデルの作成、構造基礎解析、常時微動解析の実施	H24.7.4	600,000
受託研究	教授 横山清子	(株)長崎堂	新商品開発 (食べきりサイズ商品、お土産用ラスクのパッケージ開発)	H24.9.3	350,000
受託研究	教授 横山清子	(独)科学技術振興機構	グリップのユニバーサルデザイン化のための表面形状の最適設計	H24.11.1	1,102,000
共同研究	教授 横山清子	テイ・エス テック(株)	自動車運転時の覚醒維持・向上手法に関する研究	H24.4.1	1,840,000
共同研究	准教授 尹 奎英	東邦ガス(株)	暖房使用時の居住環境に関する調査(医学部と共同実施)	H24.10.1	440,000
					10,161,000

看護実践研究センターについて（概要）



2012年度 生物多様性研究センター 活動報告

組織

- 名誉センター長 杉浦昌弘
センター長 森山昭彦
センター員 能登原盛弘、木藤新一郎、熊澤慶伯、湯川泰、村瀬幸雄
センター研究員 小木曾学、川瀬基広、松浦宏典、Sahat Ratmangkhaw

学外活動

多様性センターセミナー 8回

第16回 4月11日 田中 理映子 氏 (名古屋市 東山動物園 世界のメダカ館)

「インドネシア・スラウェシ島のメダカ採集・調査と世界のメダカ館における役割」

第17回 5月16日 水野 展敏 氏 (名古屋市 東山動物園 世界のメダカ館)

「名古屋市内のニホンメダカの生息状況について」

第18回 &第79回研究科セミナー 6月13日 林 誠司 氏 (名古屋大学 環遊学研究科)

「普通種にさぐる生物多様性―干潟の埋め立てアラムシロ―」

第19回 8月8日 木藤 新一郎 氏 (生物多様性研究センター 教員)

「遺伝子組換え作物の現状―生物多様性に及ぼす影響―」

第20回 10月24日 湯川 眞希 氏 (名古屋市立大学システム自然科学研究科)

「タバコ葉緑体in vitro翻訳系-開発と成果-」

第21回 11月12日 柴田 弘紀 氏 (九州大学生体防御医学研究所)

「日本固有の電蛇ハブ (Protothrips flavoviridis) のオミクス研究：トランスクリプトーム、全ゲノムおよび多様性解析」

第22回 1月16日 鈴木 善幸 氏 (名古屋市立大学システム自然科学研究科)

「Roles of N-glycosylation and net-charge of hemagglutinin in influenza virus evolution」

第23回 &第78回研究科セミナー 3月7日 吉久 徹 氏 (名古屋大学 物質科学国際研究センター)

「出芽酵母における、小さなtRNAの意外に複雑な生涯」

学外活動

1. 環境局主催の池干し調査 (竜巻池、猫ヶ洞池) に協力 (写真1)
2. 野外で捕獲された外来ハリネズミをアムールハリネズミの小田原型と特定 (写真2)
3. 生物多様性センター定期出版物「生きものシンフォニー」に寄稿 (写真3)
4. 「環境デーなごや」に出席 (写真4)

タニシ類のDNAバーコーディングやDNA二重らせん紙モデルの作製体験によるDNAバーコーディングの普及



写真1



写真2



写真3

各種プロジェクトの推進

貝類プロジェクト (累計はおよそ1,600点)。

東山動物園 (報告書を作成中)

ソウムシプロジェクト (累計 237点)

コマツキムシプロジェクト (累計 808点)

東海地方植物 (300点)



写真4

研究業績

論文

1. Matsubara, K., Kuraku, S., Tarrui, H., Nishimura, O., Nishida, C., Ageta, K., Kumazawa, Y., and Matsuda, Y. (2012) Intra-genomic GC heterogeneity in sauroptiles: evolutionary insights from cDNA mapping and GC3 profiling in snake. *BMC Genomics* 13: 604.
 2. Joniaux, P., Hashiguchi, Y., and Kumazawa, Y. (2012) Mitochondrial genomes of two African geckos of genus *Hemidactylus* (Squamata: Gekkonidae). *Mitochondrial DNA* 23(4): 278-279.
 3. Dehara, Y., Hashiguchi, Y., Matsubara, K., Yanai, T., Kubo, M., and Kumazawa, Y. (2012) Characterization of squamate olfactory receptor genes and their transcripts by the high-throughput sequencing approach. *Genome Biology and Evolution* 4(4): 602-616.
 4. Amer, S. A. M., Mohamed, M. A., Wilms, T. M., Shobrak, M., and Kumazawa, Y. (2012) Mitochondrial DNA variability within *Uromastyx ornata philbyi* (Agamidae: Squamata) from southwestern Saudi Arabia. *Comparative and Functional Genomics* 2012: 851379.
 5. Yuka Adachi, Hiroshi Kuroda, Yasushi Yukawa and Masahiro Sugiura. (2012) Translation of partially overlapping psbD-psbC mRNAs in chloroplasts: the role of 5'-processing and translational coupling. *Nucleic Acids Research*, 40: 3152-3158.
 6. Juan Wu, Toshihiro Okada, Toru Fukushima, Takahiko Tsudzuki, Masahiro Sugiura and Yasushi Yukawa. (2012) A novel hypoxic stress-responsive long non-coding RNA transcribed by RNA polymerase III in *Arabidopsis*. *RNA Biology*, 9: 302-313.
 7. Yasushi Yukawa, Kazuhito Akama, Kanta Noguchi, Masaki Komiya and Masahiro Sugiura. (2013) The context of transcription start site regions is crucial for transcription of a plant rRNAs (UU) gene group both in vitro and in vivo. *Gene*, 512: 286-293.
 8. 川瀬基弘, 村瀬文好, 早瀬善正, 市原俊, 森山昭彦, 家山博史 (2012) 岐阜市に生息する淡水産貝類陸の水, 54, 33-42
- 学会発表等
- 熊澤慶伯：動物進化の歴史とメカニズム、中部企業内技術士懇談会・中部青年技術士会合同例会、花車ビル北館（名古屋市）、2012年7月7日（口頭発表）90分
- Kumazawa, Y., Kurisaki, M. and Sun, Y., Characteristics of mitogenomic data for vertebrate phylogenetics, The Plenary International Symposium "Phylogenetics", Society of Evolutionary Studies, Japan, Tokyo Metropolitan University, Hachioji City, August 21 - 24, 2012（22日、口頭発表）30分
- 松浦宏典、川添和英、熊澤慶伯：日本産ネブトクワタ属の地理的分化と系統関係、昆虫DNA研究会、自然科学研究機構（岡崎市）、2012年5月19日-20日（19日、ポスター発表）
- 栗崎政希、松原和純、熊澤慶伯：トランスクリプトームを用いたヘビ類の系統的位置付けの解析、日本進化学会第14回大会、首都大学東京（八王子市）、2012年8月21日-24日（21日、口頭発表）
- 山田知江美、柴田弘紀、熊澤慶伯：カメ類ミトコンドリアDNAにおける翻訳フレームシフトの分子進化、日本進化学会第14回大会、首都大学東京（八王子市）、2012年8月21日-24日（23日、口頭発表）
- 橋口康之、出原由季、松原和純、柳井徳義、久保正仁、熊澤慶伯：並列DNAシーケンサーを用いた有棘類喫煙受胎体遺伝子群の網羅的解析、日本進化学会第14回大会、首都大学東京（八王子市）、2012年8月21日-24日（21日、口頭発表）
- 孫達、栗崎正希、熊澤慶伯：爬虫類ミトコンドリアにおける転写物の網羅的解析、日本進化学会第14回大会、首都大学東京（八王子市）、2012年8月21日-24日（22日、ポスター発表）

○藤谷武史、能登所盛弘、熊澤慶伯：尾張地区におけるカスミサンショウウオの遺伝的解析、日本爬虫両棲類学会第51回大会、愛知学泉大学（豊田市）、2012年11月10日-11日（10日、ポスター発表）

○熊澤慶伯、三浦沙綾、孫きょう、ピエール・ジョニオ、山田知江美、橋口康之、ヤモリ類のミトコンドリアDNAミックス：遺伝子配置変動と系統関係、日本分子生物学会第35回大会、福岡国際会議場&マリメッセ（博多）、2012年12月11日-14日（12日、ポスター発表）

○久野 拓哉、山本 恵子、Simone Ottoneillo、湯川 泰：近接したtRNA遺伝子とタンニン質コード遺伝子間の転写相互作用、第38回日本分子生物学会年会、福岡、2012年12月11日

○ 山本 恵子、久野 拓哉、呉 娟、湯川 泰：シロイヌナズナの長鎖tRNA遺伝子と近傍5S遺伝子の転写相互作用、第38回日本分子生物学会年会、福岡、2012年12月11日

○ 宮崎 綾香、岩田 真也、岩田 有加、湯川 泰：シロイヌナズナ光合成関連遺伝子のDNAメチル化と転写制御、第38回日本分子生物学会年会、福岡、2012年12月11日

○ 夏目 大輔、Xin He, 湯川 眞希、湯川 泰：タバコ細胞培養由来のin vitro翻訳解析法の改良、第38回日本分子生物学会年会、福岡、2012年12月14日

○ Yasushi Yukawa, Juan Wu, Toshihiro Okada, Toru Fukushima, Masahiro Sugiura. An *Arabidopsis* long non-coding RNA transcribed by RNA polymerase III responds to hypoxic stress. 第54回日本植物生理学会年会、岡山、2013年3月22日

○ 阿賀 優、湯川 泰、赤間 一仁：サブレッサー tRNA を介したアンバーコードのサブプレッショナルに基づく tRNA 機能発現系の開発、第54回日本植物生理学会年会、岡山、2013年3月22日

○ Yasushi Yukawa: Identification and functional characterization of RNA Polymerase III dependent long non-coding RNA genes. Department of Plant Molecular Biology, University of Delhi South Campus, India, February 1st, 2013.

○ Yasushi Yukawa: A novel hypoxic stress-responsive long non-coding RNA transcribed by RNA polymerase III in *Arabidopsis*. University School of Biotechnology, Guru Gobind Singh Indraprastha University, India, February 4th, 2013.

○ 鈴木美恵子、松原和純、浅井清文、森山昭彦：アジアコブThree-finger toxinの分子進化と系統、第35回日本分子生物学会年会、2012. 12. 13, 福岡、ポスター発表）

○ 三浦陽子、泉山節、森山昭彦：オクチバスにおけるベンジノガンの酵素学的特性和肉食への適応、日本動物学会第82回大会、2012. 9. 14大阪、口頭発表）

ワーク・ライフ・バランス相談室

応援します!!

仕事、フライベート、どちらも充実させたい。
今のあなたが実現したい
両立の姿に向けてともに考えます。

職場の
人間関係が
つらい...

憧れの
研究生活。
でも、育児の
負担が。

妻が入院。
近くに親戚も
おらず、仕事も
休めない。

親の介護が
長期化して
困ったな。

女性の部下を
サポートしたいが、
声のかけ方が
わからない。

研究や仕事と家庭のバランスはいつも綱渡り。
そんな中、時にはこんな不安も聞こえてきます。
あなたの課題を一緒に解決するために、
話し始めてみませんか?

利用対象者：教職員、学生等（学部生を除く）

相談窓口
電話 **052-853-8589**

（留守の場合は伝言を残してください）

mail: wlb-sodan@sec.nagoya-cu.ac.jp
HP: http://www.nagoya-cu.ac.jp/sankaku/wlb-sodan/

活用しよう! ワーク・ライフ・バランスの応援隊。



わかった! /
情報コーナーには、妊娠、出産、子育て、介護、人間関係など
に関する資料を用意しています。どなたでもご利用いただけ
ます。



一歩進んだ! /
一度、時間をとって相談してみよう。必要の場合は専門家
や他機関へもご紹介します。対象者は、教職員と学生等（学
部生を除く）に限らせていただきます。



つながった! /
イベントやセミナーに参加しよう。共通の関心をもった方
との出会いのチャンスです。対象者は、教職員と学生等（学
部生を除く）に限らせていただきます。

■ 相談員のプロフィール ■

木下 薫 教育学博士（ミネソタ大学）

専門は教育とリーディング、異文化教育です。

アメリカで性被害者支援にかかわってきました。タイ語、物語、絵本が好きです。
ヨガも教えます。子どもは9歳の長男と5歳の長女。

ワーク・ライフ・バランス相談室

052-853-8589

mail: wlb-sodan@sec.nagoya-cu.ac.jp

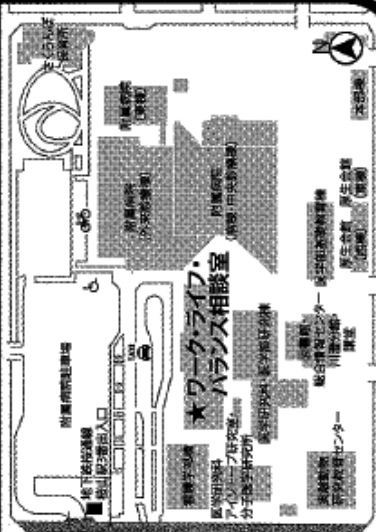
男女共同参画室と
女性研究者支援室も皆さんの
ワーク・ライフ・バランスを
応援します。

■ 男女共同参画室

TEL: 052-853-8577

■ 女性研究者支援室

TEL: 052-853-8587



【年度計画74】

平成24年度市民公開講座等一覧(平成25年3月31日現在)

内 容	学部・研究科	講 座 名	定員	応募者数	日数	延べ受講者数	受講者数	講師数 人数 学外 講師数 (内数)	開 催 日	開 催 場 所	
	医学研究科	(第1講座) 名古屋市立大学が市民に提供できる最新医療(3講演)	180	113	1	96	96	3	0	500 平成24年10月27日(土) 13:00～17:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
	薬学研究科	(第2講座) くすりを安心して使用するために(3講演)	100	141	1	104	104	3	0	500 平成24年11月24日(土) 13:00～16:20	田辺通キャンパス 薬学部薬友会館3階 水野ホール
	経済学研究科	(第3講座) 日本経済の今後の課題について ～自然災害および働き方の観点より～(2講演)	100	63	1	51	51	2	0	500 平成24年11月3日(土) 13:00～15:00	滝子キャンパス 3号館 101教室
		(第4講座) 映像や図画から異文化を学ぶ									
市民公開講座	人間文化研究科	(第4A講座) 映像で楽しむシェイクスピア、 (第4B講座) ドイツ語の楽しみ～ローレライ訳詩とドイツ詩の翻訳をめぐって～、 (第5講座) 建築の形 都市の形(2講演)	80	52	1	42	42	1	0	500 平成24年10月6日(土) 10:00～11:30	滝子キャンパス 1号館 203教室
	芸術工学研究科	(第6講座) 知っておきたい救急医療の現状と正しい応急処置(3講演)	60	39	1	29	29	2	0	500 平成24年10月13日(土) 13:00～16:00	滝子キャンパス 1号館 203教室 北千種キャンパス 芸術工学棟M101教室
	看護学部	(第7講座) 医療福祉制度の崩壊に備える！ のべ9講座 小計	80	87	1	63	63	3	0	500 平成24年11月17日(土) 13:00～15:00	桜山キャンパス 看護学部棟 308講義室
	システム自然科学研究科		180	110	1	102	102	1	0	500 平成24年10月6日(土) 13:30～15:30	桜山キャンパス 病院・病棟・中央診療棟3階 大ホール
健康科学講座 オープンカレッジ	1学部+6研究科		860	634	8	507	507	16	0	-	
	医学研究科	第1期:生活と毒性学の関わり・毒を知って安心・安全な生活 第2期:小児医療の最先端 第3期:感覚受容のメカニズムと感覚器障害	80	81	8	554	78	8	3	8,000 平成24年6月1日～7月20日 毎週金曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
			80	45	8	297	42	8	0	8,000 平成24年9月7日～10月26日 毎週金曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
			80	93	8	561	86	8	0	8,000 平成24年11月9日～平成25年1月18日 毎週金曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
サイエンス・カフェ等	人間文化研究科	Human & Socialサイエンス・カフェ	30	282	8	394	394	8	0	1,000 平成24年4月15日～平成25年3月23日1回 (11・1月を除く)土または日 15:00～17:00	サクラサイドテラス
	人間文化研究科	マンデーサロン	-	166	6	215	215	6	4	0 平成24年6月18日～平成25年2月18日 月1回(4,5,8,9,3月除く)月 16:30～	滝子キャンパス1号館1階会議室
	システム自然科学研究科	サイエンスカフェ イン 名古屋 公開講演会 在宅看護～この町で健やかに暮らし、安らかに逝(ために)～、 1.看護研究(いろいろ)はの「い」、 2.看護研究(いろいろ)はの「る」、データの取り扱い 3.呼吸管理の基礎と実態	40	486	11	409	409	8	3	600 平成24年4月20日(金)～平成25年3月15日(金)18:00～20:00 毎月1回だが、2月は開催なし	ナディアバレー7階 7th cafe(セブンスカフェ)
	看護学部		300	183	1	187	187	1	1	0 平成24年11月14日(水)18:30～20:20	名古屋市立大学附属病院ホール (病棟・中央診療棟3階)
なごや看護生涯学習セミナー			40	25	3	57	23	1	0	2,000 平成24年9月5日、9月19日、9月26日 水曜日 18:30～20:30	
			24	26	3	68	22	1	0	2,000 平成24年10月17日、10月31日、11月7日 水曜日 18:30～20:30	
			30	16	3	27	12	1	0	2,000 平成24年11月15日、11月29日、12月13日 木曜日 18:30～20:30	
		(科目№a12-101)チーム医療に必要な基礎体力づくり ～ 独断に不安を抱えるあなたに～	30	18	15	204	18	15	0	10,000 平成24年4月10日～7月31日 毎週火曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室B 及び臨床シミュレーションセンター
医療・保健 学びなおし講座		(科目№a12-102)生活習慣病の予防と治療 Up to date	60	46	15	491	46	15	1	10,000 平成24年4月11日～7月25日 毎週水曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
	医学研究科	(科目№a12-103)21世紀のがん診療:高度化するチーム医療と 専門医療の実践のために(アドバンスコース)	60	39	15	329	39	15	1	10,000 平成24年4月12日～7月26日 毎週水曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
		(科目№a12-201)発達障害を学ぶ:医学的理解から教育/養育へ	60	84	15	908	80	18	10	10,000 平成24年9月4日～平成24年12月11日 毎週火曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
		(科目№a12-202)画像診断・放射線治療を学ぶ	60	59	15	595	56	15	1	10,000 平成24年9月5日～平成24年12月12日 毎週水曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 医学部研究棟 11階講義室A
東海薬利師 生涯学習センター講座		(科目№a12-203)Birth Tour 2012 ～安全なお産を目指して(アドバンスコース)	30	34	15	321	33	18	1	10,000 平成24年9月6日～平成24年12月13日 毎週木曜日 18:30～20:00	桜山キャンパス 病院西棟 臨床シミュレーションセンター
	薬学研究科	東海薬利師生涯学習センター講座・講義コース	100	58	9	350	58	9	7	8,000 平成24年9月23日、6月13日、7月11日、8月8日、9月12日、 10月10日、11月14日、12月12日、 平成24年1月9日 水曜日 20:00～21:30	田辺通キャンパス 薬学部薬友会館3階 水野ホール

内 容	学部・研究科	講 座 名	定員	応募者数	日数	延べ受講者数	講 師 数		受講料	開 催 日	開 催 場 所	
							受講者数	学外講師数 人数 (内数)				
チーム医療に貢献する 薬局薬剤師の養成講座	薬学研究科	名古屋市大チーム医療に貢献する薬局薬剤師養成研修	40	58	20	694	39	14	0	平成24年5月20日、5月27日、6月9日、6月16日、7月1日、7月29日、8月4日、8月19日、8月25日、9月1日、9月15日、9月23日、10月13日、10月20日、11月17日、11月18日、11月25日、12月8日、12月15日(1月、2月は未定) 土曜日:15時～19時、日曜祝日:13時～17時	田辺通キャンパス 薬学部実習棟 桜山キャンパス 病院西棟 臨床シミュレーションセンター	
			250	203	3	451	203	6	3	5,000	平成24年9月30日(日)、10月21日(日)、11月11日(日) 9:30～11:00、11:20～12:50	田辺通キャンパス 図書館講堂
			30	111	14	360	29	1	0	0	平成24年4月16日～7月25日 毎週月曜日(7/25のみ水曜) 14:40～16:10	滝子キャンパス 3号館 201教室
			30	43	14	223	29	1	0	0	平成24 年9月28日～平成24年1月18日 毎週金曜日(12/28、1/4を除く)全14回9:00～10:30	滝子キャンパス 3号館 101教室
授業公開	人文社会学部	前期:「政治学」 後期:「アメリカ政治史」 後期:「総合科目・名古屋と観光」 前期:「アーバン・プロデュース論」 後期:「感性価値論」 後期:「看護学概論」 第17回 公開シンポジウム 「21世紀の名古屋市を展望する」	30	117	15	402	30	1	0	平成24年4月16日～7月25日 毎週月曜日(7/25のみ水曜) 13:00～14:30	滝子キャンパス 2号館 404教室	
			20	56	15	454	35	1	0	0	平成24年9月25日～平成25年1月15日 毎週火曜日 10:40～12:10	滝子キャンパス 1号館 203教室
			20	29	15	244	21	7	2	0	平成24年9月28日～平成25年1月22日 毎週金曜日(1/22のみ火曜)13:00～14:30	滝子キャンパス 1号館 201教室
			30	24	15	278	24	1	0	0	平成24年4月11日～7月18日 毎週水曜日 9:00～10:30	北千種キャンパス 芸術工学棟M101教室
シンポジウム	経済学研究科 ・附属経済研究所 人間文化研究所 人間文化研究科 人文社会学部 ・名古屋博物館連携	公開講演会・シンポジウム 「近代」の文化財 産業遺産の保存と継承、 人文社会学部 シンポジウム ESDと大学 ～新たな地域連携型教育の多様な可能性を求めて～ 名古屋博物館×名古屋大学×九州国立博物館 「OSUワークショップ」 春の薬草園の市民公開 秋の薬草園の市民公開	10	21	15	112	10	1	0	平成24年9月27日平成25年1月17日 毎週木曜日 9:00～10:30	北千種キャンパス 芸術工学棟M101教室	
			5	2	7	13	2	1	0	3,000	平成24年11月27日～平成25年1月22日 毎週火曜日(12/25、1/1を除く)全7回10:40～12:10	桜山キャンパス 看護学部棟308講義室
			300	318	1	357	5	1	0	0	平成24年11月9日(金) 14:00～17:00	名古屋市立大学附属病院ホール (南棟・中央診療棟3階)
			200	68	1	68	4	3	0	0	平成24年11月24日(土) 13:30～17:00	滝子キャンパス 1号館 201教室
ワークショップ	人文社会学部 ・名古屋博物館連携	人文社会学部 シンポジウム ESDと大学 ～新たな地域連携型教育の多様な可能性を求めて～ 名古屋博物館×名古屋大学×九州国立博物館 「OSUワークショップ」 春の薬草園の市民公開 秋の薬草園の市民公開	200	200	1	124	4	2	0	平成25年2月5日(火)14:00～17:30	滝子キャンパス 1号館 201教室	
			-	245	1	245	2	0	0	0	平成24年12月24日(月) 10:00～15:00	名古屋市博物館 展示説明室
薬草園市民公開	薬学研究科	春の薬草園の市民公開 秋の薬草園の市民公開	75	281	2	155	2	0	500	平成23年5月11日(金)・12日(土)10:00～12:00	田辺通キャンパス 薬草園	
			75	188	2	144	2	0	500	平成24年10月12日(金)・13日(土)10:30～12:00		
名古屋工業大学共催 経営トピセミナー	経済学研究科 ・附属経済研究所 経済学研究科 ・名古屋商工会議所、 愛知県国際交流協会共催 連院国際経済セミナー	「これからの技術マネジメント」 第1回 「ニューロ危機と日本経済」 第2回 「EU経済のゆくえ」 正しく使うために(くすり)を知る	150	96	1	96	3	1	0	平成24年11月14日(火)13:30～17:00	滝子キャンパス 1号館 201教室	
			40	40	1	40	2	1	0	平成24年12月7日(金)17:00～18:30	名古屋商工会議所 第5会議室(3F)	
			100	60	1	70	6	5	0	平成25年3月21日(木)14:00～16:00	あいichi国際プラザ	
			100	169	5	461	120	5	0	500	平成25年1月9日～2月6日 毎週水曜日 14:00～15:30	名古屋市女性会館 視聴覚室
千種生涯学習センター共催 連携講座	芸術工学研究科	芸術工学から人間を考える	30	27	4	81	27	4	0	平成10月29日～11月19日 毎週月曜日 13:30～15:30	北千種キャンパス アセンブリーホール2階 環境デザイン研究所	
			100	104	5	352	91	1	0	0	平成24年10月25日、11月1日、11月8日、11月29日、12月6日 木曜日 10:00～12:00	桜山キャンパス 本部棟 4階ホール
女性会館共催連携講座	経済学研究科・看護学部 ・人間文化研究科 ・システム自然科学研究科 医学研究科 看護学部	危機克服の日本経済史 高齢社会を切り拓く-いつか来る老後を乗り切るために- 女性のコロナとカラダ	40	58	4	151	48	4	0	平成24年6月18日～7月9日 毎週月曜日 14:00～16:00	名古屋市女性会館	
			40	57	4	141	48	4	0	0	平成24年11月17日(土)14:00～15:30、 12月1日(土)14:00～16:00、12月8日(土)14:00～16:00、 12月15日(土)14:00～15:30	名古屋市女性会館
12,190							4,371	278	64			

記入上の注意事項:
・「受講者数」について...連続講座の場合で、同じ受講者が複数回受講する講座の場合は、講座申込者の数を記載する。毎回受講者を募集するような講座の場合は、各回のトータルの受講者数を記載する(延べ受講者数と同数となる)。
・記載するイベントについて...この表に記入する講座、講演会、シンポジウムは、本学が主催で実施するもののみ(共催含む)。

【年度計画74】

「第15回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2012～」開催結果

●開催規模及び来場者数

開催期日	会場	来場者数
平成24年5月25日(金)～27日(日)	ポートメッセなごや 3号館	
展示規模	133社・団体、403小間 (昨年比+22社・団体、+124小間)	
来場者数	70,687人 (昨年比△788人)	
第1日目 25日(金)	天候：くもり	23,220人
第2日目 26日(土)	天候：晴れ	25,741人
第3日目 27日(日)	天候：晴れ	21,726人

●開催企画参加者数

ウェルフェア健康大学 (協力：名古屋市立大学) (総参加者数 2,165人)	参加者数
「高血圧はなぜ悪い～高血圧を予防する、高血圧とうまく付き合う～」 医学研究科 准教授 (循環器内科 副部長) 土肥 靖明氏	80人
「知って欲しい・くすりの飲み合わせ」 医学研究科 教授 (薬利部 部長) 木村 和哲氏	60
「眼のしくみと色の見え方～色覚バリアフリーに向けて～」 システム自然科学研究科 講師 田中 豪氏	82
「生きていることを支える緩和ケア～緩和ケアとは何?～」 医学研究科 病院講師 (緩和ケア部) 坂本 雅樹氏	73
「ピロリ菌と胃潰瘍・胃がん」 医学研究科 准教授 (内視鏡部 副部長) 片岡 洋望氏	97
「最先端のがん放射線治療～トモセラピーと陽子線治療～」 医学研究科 教授 (放射線科 部長) 芝本 雄太氏	61
「よく寝る子は青くよく寝る大人は長生きする」 医学研究科 病院准教授 (睡眠医療センター 部長) 中山 明峰氏	88
「がんとうき合う患者・家族の講座～最良のがん治療を受けるために～」 医学研究科 准教授 (化学療法部 部長) 小松 弘和氏	95
「お家で活用できる感染予防～家族と自分を守るためにできること～」 看護学部 准教授 藤本 寛子氏	100
「認知症高齢者の症状の評價とケア～行動・心理症状を中心に～」 看護学部 講師 刈田 英津子氏	352
「変形性膝関節症について～予防・治療～」 医学研究科 病院教授 (整形外科 副部長) 小林 正明氏	103
「発達障害者への支援を考える～就職期の支援を中心に～」 人間文化研究科 教授 滝村 雅人氏	110
「中高年男性を悩ませる前立腺～なれば困るがあつても困る～」 医学研究科 准教授 (泌尿器科) 佐々木 昌一氏	48
「知ると得する新しくすりの上手なのみかた、つかいかた」 薬学研究科 教授 藤井 聡氏	64
「介護予防・その具体的方法とは?」 システム自然科学研究科 教授 高石 敏雄氏	112
「舌は健康のパロメーター～舌っておもしろい!～」 医学研究科 教授 (歯科口腔外科 部長) 横井 基夫氏	85
「在宅において終末期がん患者を介護する家族への支援 ～家族の体験をアセスメントし支援していく方法とは～」 看護学部 准教授 山手 美和氏	105
「歯科インプラント治療の実態～最近のテレビ報道などをふまえて～」 医学研究科 助教 (歯科口腔外科) 金山 健夫氏	47
「肺年齢って何?～思われと肺機能とCOPD～」 医学研究科 病院教授 (呼吸器内科) 佐藤 滋樹氏	84

「改善しうる認知障害・歩行障害～特発性正常圧水頭症について～」 医学研究科 教授 (名古屋市病院局長) 山田 和雄氏	75人
「アルツハイマー病～予防法から最新治療法まで～」 医学研究科 准教授 (神経内科 部長代理) 松川 則之氏	108
「なおりにくい皮膚病をどのようににおおす～乾癬・掌跖腫瘍症の治療最新線～」 医学研究科 教授 (皮膚科 部長) 森田 明理氏	136

ウェルフェアいきいき健康教室 (実技体験) (総参加者数 444人)	参加者数
「健康体操 自護術 (じきようじゅつ) ～万病克服の体育療法」 公益社団法人 自護術普及会 中部総支部長 永井 弘子氏	146人
「健康太極拳～ゆるやかに気をめぐらし誰でも出来る健康太極拳～」 場名時太極拳 師範 糸柳 元英氏	64
「健康体操 真向法 (まっこうほう) ～1日3分間 真向法体操で心も体も美しく～」 公益社団法人 真向法協会 愛知真向法体操会 会長 内藤 清逸氏	91
「中国気功～長寿のための中国気功養生法」 日本香功研究会 会長 林 茂美氏	143

ウェルフェアお役立ち・防災セミナー (総参加者数 415人)	参加者数
「バリアフリーな食生活～誰もが安心・安全に食べられる工夫～」 名古屋厚生院 管理課 栄養管理係 係長 山嶋 淑己氏	57人
「全ては被災者のために～東日本大震災における医療支援の現場から～」 名古屋第一赤十字病院 救命救急センター長 花木 芳洋氏	46
「腰痛を防ぐ北バビリアーセッション～いつまでもおいしく安全な食事を～」 名古屋市北区訪問看護センターセッション 所長	84
「動力の要らない受動歩行で切り拓く新しい歩行支援～福祉機器への応用～」 名古屋工業大学大学院 機能工学専攻 教授 佐野 明人氏	95
「アラフォーアレンジメント教室～介護・福祉現場で花に親しむ～」 公益社団法人 日本アラフォーアレンジナイター協会 愛知県支部 共催：花の王国あいち推進事業実行委員会	133

ウェルフェア安心・安全音楽会 (総参加者数 673人)	参加者数
第1部 「手話でうたおう、みんなとみち」 協力：手話サークルあやとり、ジュニア手話クラブゆびきり	230人
第2部 「音楽療法：心をつなぐ音楽の絆」 名古屋音楽大学大学院 教授 栗林 文雄氏	235
第3部 「音楽隊演奏会」 協力：名古屋消防音楽隊、愛知県警察音楽隊	208

●同時開催

「第5回介護・福祉・医療関連の就職・転職説明会」 参加法人数：28法人 来場者数：495人

●併催企画イベント

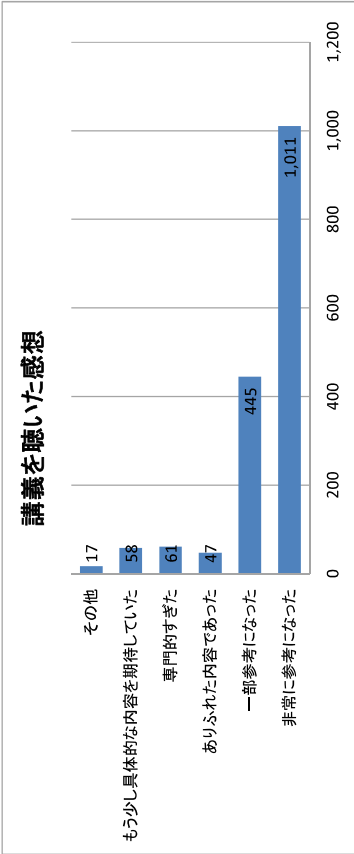
「健康フェアミラーワーク」 参加人数：896人

ウェルフェア2012 ウェルフェア健康大学 満足度結果

参加者数: のべ2,165名

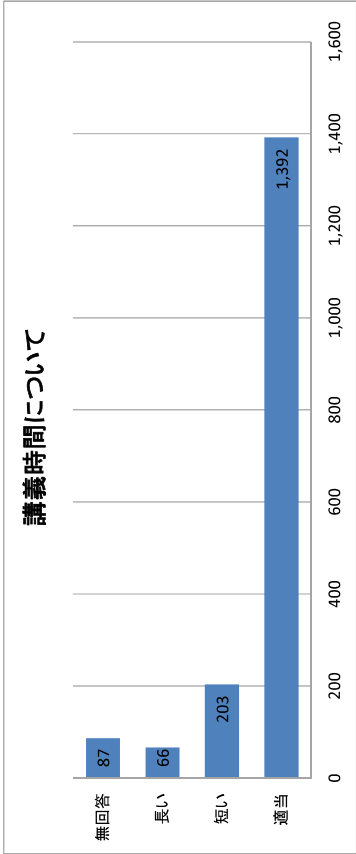
感想

内容	非常に参考になった	一部参考になった	ありふれた内容であった	専門的すぎた	もう少し具体的な内容を期待していた	その他	無回答	計
人数	1,011	445	47	61	58	17	109	1,748
割合	57.8%	25.5%	2.7%	3.5%	3.3%	1.0%	6.2%	



時間

内容	適当	短い	長い	無回答	計
人数	1,392	203	66	87	1,748
割合	79.6%	11.6%	3.8%	5.0%	



【年度計画78】

大学間交流協定の実績(年度別)

平成25年3月31日

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生 派遣/受入	研究者 派遣/受入
ニューサウス ウェールズ大学	経済学部	研究者交流協定	平成2年11月21日	13		1
				14		0
				15		1
				16		1
				17		1
				18		1
		学生交流協定	平成3年11月15日	19		0
				20		0
				21		0
				22		0
				23		0
				24		0
	医学部	学術交流協定	平成8年12月5日	13		2
				14		3
				15		2
				16		3
				17		2
				18		2
		学術交流協定	平成10年3月30日	19		2
				20		0
				21		0
				22		0
				23		0
				24		0
人文社会学部	学術交流協定	平成10年3月30日	13		0	
			14		0	
			15		1	
			16		3	
			17		2	
			18		2	
	学術交流協定	計	19		2	
			20		4	
			21		0	
			22		1	
			23		0	
			24		1	
薬学部	計	計	13		4	
			14		5	
			15		4	
			16		7	
			17		6	
			18		5	
	学術交流協定	平成4年9月25日	19		3	
			20		4	
			21		3	
			22		3	
			23		4	
			24		3	
南カリフォルニア 大学	学術交流協定	平成4年9月25日	13		2	
			14		1	
			15		2	
			16		2	
			17		2	
			18		0	
	学術交流協定	計	19		7	
			20		3	
			21		3	
			22		3	
			23		2	
			24		1	

大学間交流協定の実績(年度別)

平成25年3月31日

締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者			
					派遣/受入	派遣/受入	派遣/受入	派遣/受入		
トリノ工科大学	芸術工学部・ 研究科	一般協定	平成13年1月26日	16	0	1	0	0	0	
				17	0	0	2	0	0	
				18	1	0	1	2	0	
				19	3	0	1	0	0	
				20	3	0	1	0	0	
				21	2	0	3	1	0	
		22	3	0	0	0	0			
		23	0	0	2	1	0			
		24	1	0	3	0	0			
		14	8	0	2	0	0			
		15	0	0	0	0	0			
		16	0	0	0	0	0			
シドニー大学	看護学部 薬学部 医学部	学術交流協定	平成14年3月14日	16	0	0	0	0	0	
				17	0	0	2	0	0	
				18	0	0	1	1	0	
				19	0	0	0	0	0	
				20	0	0	0	0	0	
				21	8	0	2	0	0	
		22	0	0	0	0	0			
		23	0	0	0	0	0			
		24	0	0	0	0	0			
		14	0	0	0	0	0			
		15	0	0	0	0	0			
		16	0	0	0	0	0			
ウィチタ州立大学	システム自然 科学研究科	学術交流協定	平成14年12月12日	16	0	0	0	0	0	
				17	0	0	0	0	0	
				18	1	0	0	0	0	
				19	0	0	0	0	0	
				20	0	0	0	0	0	
				21	0	0	0	0	0	
		22	0	0	0	0	0			
		23	0	0	0	0	0			
		24	0	0	0	0	0			
		14	2	0	0	0	0			
		15	3	0	0	0	0			
		16	2	1	0	0	0			
南京医科大学	医学研究科 薬学研究科	学術交流協定	平成14年11月13日	17	0	0	0	0	0	
				18	0	0	0	0	0	
				19	0	0	0	0	0	
				20	0	0	0	0	2	
				21	0	0	0	0	0	
				22	0	0	0	0	0	
		23	0	0	0	0	0			
		24	0	0	0	0	0			
		18	0	0	0	0	0			
		19	0	0	0	0	0			
			学術交流に関する 協定	平成18年11月16日	18	0	0	0	0	0
					19	0	0	0	0	0

大学間交流協定の実績(年度別)					平成25年3月31日				
締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者		
					派遣	受入	派遣	受入	
ハルリム大学	全学	学生交流に関する協定	平成22年7月7日	20	0	0	0	5	
				21	0	2	0	0	
				22	0	4	3	0	
				23	4	2	4	1	
				24	6	3	9	2	
ペーチ大学	全学	学術交流協定	平成19年1月10日	18	0	0	0	0	
				19	0	0	0	0	
				20	0	0	0	0	
				21	0	0	0	0	
				22	0	0	1	0	
コロソボ大学	全学	学術交流協定	平成19年5月15日	23	0	0	0	4	
				24	0	0	0	0	
				18	0	0	0	0	
				19	0	0	0	0	
				20	0	0	0	0	
ハリ3大学	全学	学術交流協定	平成20年12月16日	21	0	0	0	0	
				22	1	0	0	0	
				23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	3	
				20	0	0	0	2	
瀋陽医学院	全学	学術交流協定	平成21年3月25日	21	0	0	0	0	
				22	0	0	2	4	
				23	0	0	2	0	
				24	0	0	0	0	
				21	0	0	1	0	
ライプツィヒ応用科学大学	全学	学術交流協定	平成22年6月10日	22	0	0	0	0	
				23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	0	
				21	0	0	2	0	
				22	0	0	0	0	
マレーシア国民大学	全学	学術交流協定	平成21年3月3日	23	0	0	0	0	
				24	0	0	1	0	
				21	0	0	0	0	
				22	0	0	1	3	
				23	0	0	0	0	
中央民族大学	全学	学術交流協定	平成22年3月31日	24	0	0	0	0	
				22	0	0	0	0	
				23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	0	
				22	0	0	0	0	
清陽薬科大学	全学	学術交流協定	平成23年2月9日	23	0	1	2	0	
				24	0	3	2	0	
				22	0	0	0	0	
				23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	0	
バドヴァ大学	全学	学術交流協定	平成23年3月31日	23	0	3	2	1	
				24	0	1	2	0	
				22	0	0	0	0	
				23	16	17	1	2	
				24	3	3	0	0	
南ウウル大学	全学	学術交流協定	平成23年6月2日	23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	0	
				23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	0	
				23	0	5	0	1	
シャルジャ大学	全学	学術交流協定	平成23年12月12日	24	2	2	0	1	
				23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	0	
				23	0	0	0	0	
				24	0	0	0	0	
マドリッド工科大学	全学	学術交流協定	平成24年9月25日	24	0	0	0	0	
				23	7	2	6	1	
				14	22	2	8	3	
				15	26	6	8	1	
				16	29	5	7	1	

大学間交流協定の実績(年度別)					平成25年3月31日				
締結相手校	学部等	協定	締結日	年度	学生		研究者		
					派遣	受入	派遣	受入	
統計					17	13	3	6	1
					18	20	3	7	3
					19	13	6	3	1
					20	14	2	5	10
					21	14	8	12	2
					22	16	7	12	7
					23	37	33	19	10
					24	21	15	23	8

協定締結大学数:23件
協定の件数:34件

24 年度計画

[81] 高齢化に伴い増加するがん患者に対応するとともに、地域がん診療連携拠点病院としてがん治療を推進するため、化学療法、放射線治療、緩和ケアを行う東棟の運用を開始する。

1 病院内に新設された東棟（喜谷記念がん治療センター）の整備財源

東棟の整備の財源は、市からの補助金を充てることではなく、法人の目的積立金及び診療収入、並びに本学名誉教授の設立した財団からの寄附を財源として整備を図ったものです。

整備費用	約 1 6 億円
・目的積立金	約 1 2 億 6 千万円
・診療収入	約 2 億 4 千万円
・寄附金	約 1 億円

目的積立金	各会計年度の決算の損益計算において生じた利益のうち、中期計画に定める使途に充てるため、設立団体の長の承認を受けた金額。
診療収入	病院における診療の対価。整備年度の収入。
寄附金	元薬学部長の故喜谷名誉教授が、自ら開発した抗がん剤であるオキサリプラチンに関する知的財産などを原資として、設立された財団からの寄附。

2 東棟（喜谷記念がん治療センター）の機器とその効果

東棟は、社会の高齢化に伴い年々増え続けるがん患者さんに対し、高度な診断や様々な先端治療を併用する「集学的な治療」を行うことにより、治療成績の向上を図ることを目的として整備したものの。

東棟に整備した主な機器は、「3 テスラMRI」「トモセラピー」及び「抗がん剤自動調製装置」です。

(1) 3 テスラMRI

MRI は磁気と電波を利用して、体の断面の画像を得ることができる撮影装置です。

これまで、名古屋市立大学病院では 1.5 テスラMRI しかありませんでしたが、東棟整備後は、3 テスラMRI が加わることで、小さな腫瘍の診断に有用であるほか、パーキンソン病など中枢神経疾患患者の診断などができる装置です。

(2) トモセラピー

トモセラピーは、がん細胞への放射線照射装置です。機械が体のまわりを回りながら放射線照射を行うことにより、がん病巣へ限定した放射線治療を行うことができます。

これにより、小さながん病巣へのピンポイントの照射や複雑ながん病巣、複数の病巣への照射も可能となり、治療の効率を上げることができるほか、患者さんの被ばく量を減らすことで、患者さんの負担も軽減します。

(3) 抗がん剤自動調製装置

この装置は、抗がん剤の混合調製をロボットアームが自動的に行う装置です。抗がん剤は発がん性・催奇形性を有するため、この装置の導入により調製時における医療従事者の薬剤の曝露を防止することができます。また、調製過程は重量を含めて正確に記録されるため、抗がん剤治療の安全性が向上します。

さくら ほっと NEWS

特集

▶ 喜谷記念がん治療センター 開院

がん治療の新しい施設が誕生しました！

P. 2・3

医療費のハナシ

▶ 「限度額適用認定証」が外来診療でも利用できます。

東棟「喜谷記念がん治療センター」(手前)と
病棟・中央診療棟

お知らせ

▶ 専門看護師・認定看護師の紹介

ーがん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師

P. 4

理念

当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します

基本方針

- ・大学病院として、高度先進医療を提供します
- ・高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
- ・医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

名古屋市立大学病院

vol.20
2012年4月

患者さんの権利等

患者さんの権利

良質の医療を受ける権利
情報を知る権利
選択の自由の権利
自己決定の権利
機密保持を得る権利

患者さんは、人格や意思が尊重され、質の高い医療を平等かつ安全に受けることができます。
患者さんは、ご自身の病気や治療について知ることができるとともに、十分でわかりやすい説明を受けることができます。
患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身で選択し変更することができます。また、他の医師の意見を求めることもできます。
患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身の意思に基づいて決定することができます。
患者さんのプライバシーは十分に尊重されるとともに、個人情報厳正に保護されます。

患者さんの責務

- 病院の規則や治療上必要な指示・助言を守って療養してください。
- ご自身の健康状態について、できるだけ正確に伝えてください。
- 説明を受けても十分に理解できない場合は、納得できるまでお尋ねください。
- 他の患者さんの権利を尊重し、暴言・暴力等の医療の妨げとなるような行為は行わないでください。
- 医療費の自己負担分は必ずお支払いください。

お願い

- 大学病院として、医療スタッフを育成するため教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。



喜谷記念がん治療センター 開院 がん治療の新しい施設が誕生しました！

社会の高齢化に伴い、がん患者さんは年々増え続けています。名古屋市立大学病院は、高度な診断や様々な先端治療を併用する集学的な治療を行い、今後の医療の発展に寄与するため、東棟「喜谷記念がん治療センター」を整備しました。

主な設備



トモセラピー

トモセラピーとは、コンピュータ断層撮影機能（CT）とがんの病巣に放射線を照射する放射線治療の機能を有する機器です。この機器は、様々な方向からがん放射線を照射することで、十分な放射線量をがんにあてることができ、正常組織にあたる放射線量を少なくするようにしています。また、CT撮影機能を一体化させることにより、小さな病巣へのピンポイントの照射や複雑ながん病巣、複数の病巣への照射も可能となります。トモセラピーについては特に頭頸部がんの治療に効果が期待されています。



3T（3テスラ）MRI

MRIとは、磁力を用いて体内などの画像を撮影する装置です。「テスラ」とは、磁力の大きさの国際単位で、基本的にはその数値が大きければ高解像度の画像を得ることができま。従来、当院では1.5TのMRIが稼動していましたが、3T MRIの導入により、より高画質な撮影を行うことができ、より正確な診断ができるほか、パーキンソン病など神経疾患の診断にも活用することができま。

放射線治療・画像診断



化学療法



化学療法室

これまで外来診療棟で実施していた化学療法を、東棟の2階で実施します。化学療法を受けていただくベッドとリクライニング・チェアが111台から30台に増え、より多くの患者さんに抗がん剤治療を受けていただけるようになりました。



抗がん剤自動調製装置

抗がん剤は、がん細胞だけでなく正常な細胞にとっても毒性があります。そのため調製の際には、抗がん剤を吸い込んだり、皮膚に付いたりしないよう注意する必要があります。国内で3台目、西日本では初の導入となるこの装置は、外部と完全に隔離したエリアで抗がん剤の調製を自動で行います。患者さんに投与する抗がん剤を、「清潔な環境で」調製をする薬剤師への影響無しに「人間的なミスを防止して」調製することが可能となります。



緩和ケア外来

これまで外来診療棟で実施していた緩和ケア外来を、東棟2階で行います。緩和ケア外来は、がん患者さんやそのご家族の苦痛を緩和し、よりよい療養生活を送っていただけるように支援することを目的に設置しております。

緩和ケア